

2003 年度
環境週間
活動報告書

In University of Tokyo

●○ 目次 ○●

第一部 ～環境週間概要～

1. はじめに	2
2. 環境週間とは	3
3. コンセプトについて	4
4. 開催期間	5
5. タイムテーブル	6
6. 開催場所	7
7. 開催までの道のり	9
8. お世話になった団体	11
9. 開催企画一覧	12

第二部 ～各開催企画の詳細～

1. 古着回収キャンペーン	14
2. 生協での環境グッズ・環境本コーナー	20
3. エコブース	30
4. 自転車発電体験	33
5. 生協の環境に対する取り組み展示	45
6. 落ち葉堆肥化実験公開	50
7. 化学部による環境実験体験	53
8. NOレジ袋キャンペーン	61
9. 広報誌『eco-week』発行	66
10. 構内一斉清掃	71
11. アンケートの実施	74
12. 他大学との協力	88
13. 合同報告会	92
14. 広報方法	97

第三部 ～環境週間総括～

1. 全体を通じたの反省	110
2. 来年度以降の展望	114
3. おわりに	115
4. スタッフ一覧	116

第一部

環境週間概要



1 . はじめに

2002年10月。「今までのように、自分たちだけで単発的に活動を行っていたのでは駄目だ。様々な主体と連携して、学校全体に『環境』を考えるような時期を作ることは出来ないか。」そんなメンバーの思いにこのプロジェクトは端を発します。

それから約7ヶ月間、「どうすれば学校全体に環境を意識してもらえる『雰囲気』を作り出すことが出来るか。」「どうすれば自己満足に終わらない活動を行う事ができるか。」と言った事を念頭に置き、ミーティングを重ね、雑務を続けてきました。

東大内でこのような大規模な環境活動を平常授業時に行なうのは初めての試みでした。そのため、メンバー一同手探り状態で準備にあたり、不安に苛まれながらも何とか開催まで漕ぎ着け、大きな事故も無く終える事が出来ました。

その過程で沢山の失敗を重ね、他のメンバーに迷惑を掛けることもありました。そうして得た僕たちの体験や感想などを来年以降の環境週間につなげていてもらいために、また、環境週間を広く全国の大学で行なう際の参考となって欲しいため、本報告書を作成しました。自分たちの活動の全てを網羅するのは不可能ですが、何らかの形で活動の一助になればこの上ない幸いです。

また今回の環境週間は、慶應義塾大学・法政大学と同時開催というかたちで行なわれましたが、本報告書は主に東京大学で行なわれた活動についての報告書です。

最後に、環境週間を開催するにあたり非常に多くの方からご理解・ご協力を得る事が出来た事が、今回の一番の成果だったと思います。心から感謝いたします。本当に有り難うございました。

2003年度環境週間責任者
桐生朋文

2. 環境週間とは

キャンパスの構成員全員が、環境について考え、触れることが出来る。そのような環境関連企画を、生協や教養学部の協力のもと集中して行う1週間。それが「環境週間」です。

今回の環境週間は環境サークル「環境三四郎」の主催により行われました。環境三四郎についての詳しい説明はホームページをご覧ください。<http://www.sanshiro.ne.jp>

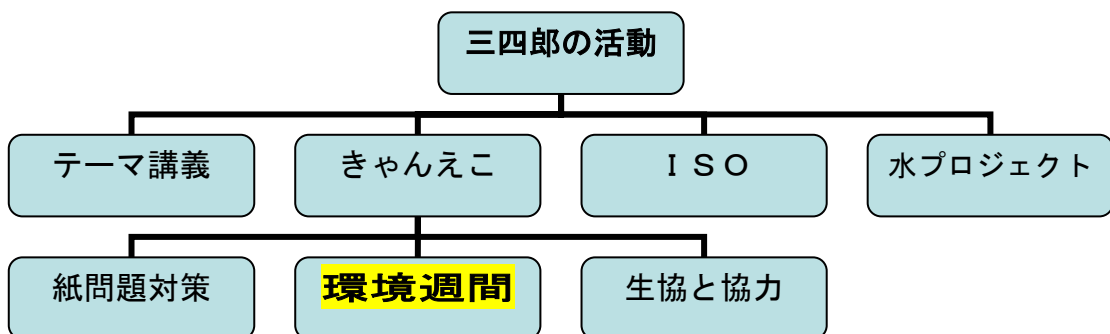
ここでは、環境三四郎の中における今回の環境週間の位置づけについて説明します。

同時開催されていた慶應や法政と一番異なる点としては、環境三四郎全体の活動として環境週間が行なわれていたのではないという点です。

環境三四郎の活動というのは、メンバーの興味・関心に合わせて曜日ごとに違う活動を行なうプロジェクト制の形をとっています。各プロジェクトの詳しい説明については割愛しますのでホームページをご覧ください。

その一つとして、「キャンパスエコロジー活動」通称「きゃんえこ」というプロジェクトがあります。駒場キャンパス内で行なっている活動の総称であり、紙対策や落ち葉の堆肥化、生協と協力しての環境対策などを行なっています。その「きゃんえこ」の一環として今回の環境週間は行なわれました。

そのため人的資源の関係上、企画ごとに担当を分担してしまうのではなく、メンバー全体で全ての企画に関わるような形になったのが東大の環境週間の特徴と言えるでしょう。



などなど…
この他にも色々な
活動・プロジェクトを行なっています。

3. コンセプトについて

今回の環境週間のテーマは、

「日常生活へのフィードバック」
&
「楽しく全員参加」

~~~~~

環境週間を通じて、少しでも環境への関心を持ってくれたら、その気持ちを普段の生活の中で忘れないでいて欲しい。ポイ捨てをしないとか、モノを大切に使うとか、小さなことでもいいから身近なところからキャンパス内に「環境」を考える雰囲気生まれる切欠にすること。

それからもう一つ、「面倒くさい」そんな風に考えられがちな「環境に対する取り組み」をもっと身近に、もっと楽しく感じてもらいたい。そのためキャンパスの人たち全員が手軽に参加できるような企画を行いました。要らない古着を交換したり、オシャレな商品を買ったり、「ついでに」環境にも優しい取り組み、まずはそんな所から始めてみたいと思いました。

それが、東京大学の環境週間で目指したものです。

~~~~~

4. 開催期間

2003年6月16日(月)～2003年6月20日(金)

上記の五日間で様々な企画を行いました。後述する企画のうち、「古着回収キャンペーン」「エコブース」「自転車発電体験」「化学部による環境実験体験」は昼休みを利用して行いました。

この時期を選んだ理由の一つとして、6月の「環境月間」に合わせて実施したかったというのがあります。「環境月間」の説明について、環境省のHPより抜粋。

=====

6月5日は環境の日です。これは、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定め、日本では「環境基本法」(平成5年)が「環境の日」を定めています。

「環境基本法」は、事業者及び国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高めるという「環境の日」の趣旨を明らかにし、国、地方公共団体等において、この趣旨にふさわしい各種の行事等を実施することとしています。

我が国では、環境庁の主唱により、平成3年度から6月の一ヶ月間を「環境月間」(昭和48年度～平成2年度までは、6月5日を初日とする「環境週間」とし、全国で様々な行事が行われています。世界各国でも、この日に環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするため様々な行事が行われています。

(環境省HP <http://www.env.go.jp/guide/envdm/>より抜粋)

=====

6月5日の「環境の日」から一週間ではなく、第3週に実施した理由について説明します。

初めは4月に新歓も兼ねて行なおうかという話が出ていたが、準備期間が不足しすぎることで、新入生にも何らかの形で準備に参加して欲しいことから却下となりました。

また、5月31日・6月1日に東京大学の学園祭である「駒場祭」が行なわれるため、それ以降が望ましいと考え、7月にはいとテストなどで忙しくなることから6月に実施する事を決定。さらに、6月第4週には三四郎が運営協力を行なっている「テーマ講義『環境の世紀X』」において三四郎の発表があることなどから第3週に行なうこととしました。

このように開催時期を決定したのは2月中旬のことでした。

5. タイムテーブル

開催期間中のタイムテーブルは以下の通り。

	1 限	2 限	昼休み	3 限	4 限以降
生協書籍部	環境本コーナー				
生協購買部	環境グッズコーナー NO レジ袋キャンペーン				
生協入り口	生協の環境への取り組み展示				
銀杏並木			古着回収キャンペーン エコブース 自転車発電体験 環境化学実験体験		
矢内原公園				落ち葉堆肥化実験 公開 (6月19日(木))	
構内全域	広報誌『eco-week』発行				
				一斉清掃 (5月29日(木))	

銀杏並木での企画は12:10~13:30に、生協での企画は生協の営業時間である9:00~18:30に行ないました。

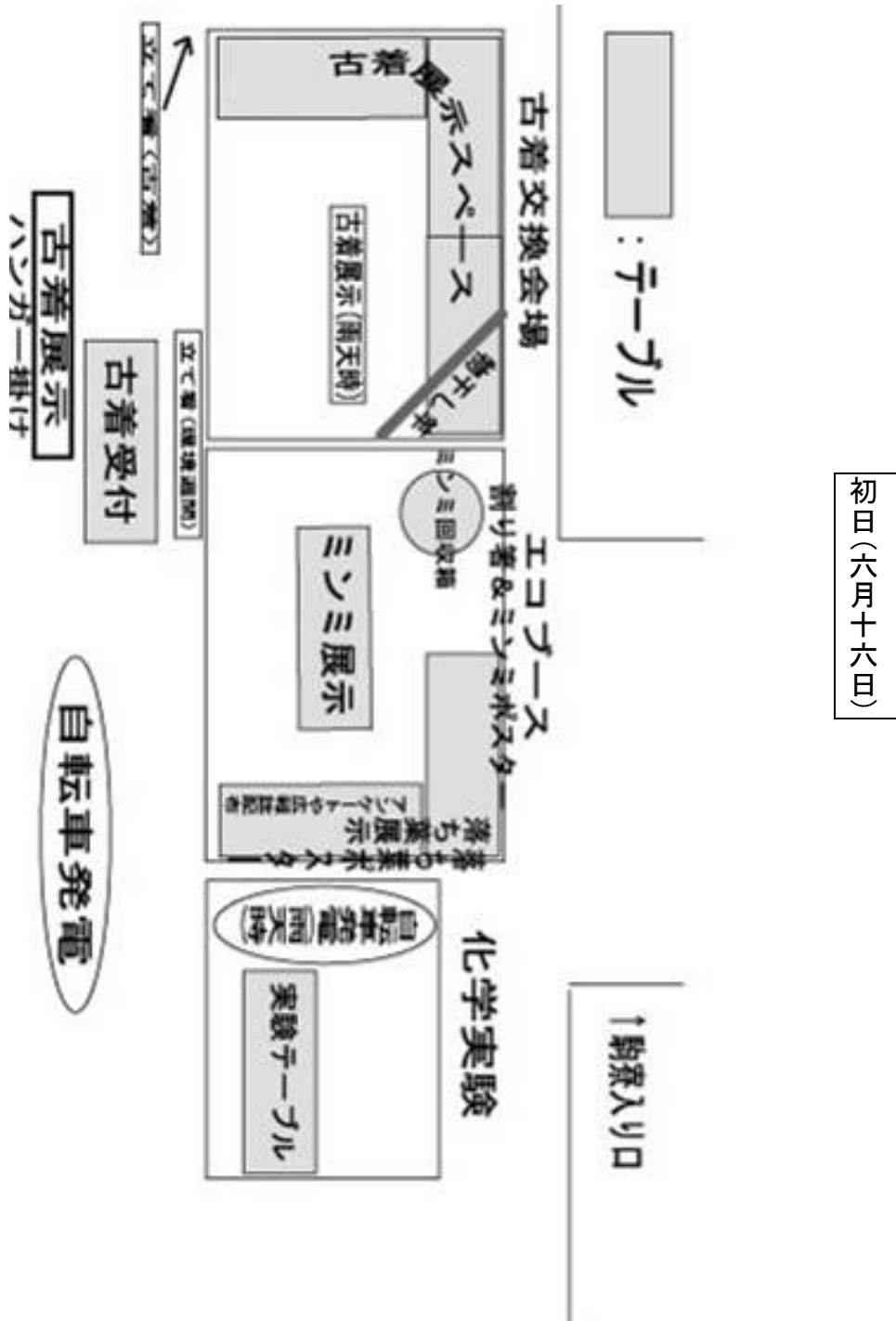
詳しくは次ページ『開催場所』参照。

また、其々の企画の詳細は第二部を参照。

- 1 限 : 9:00~10:30
- 2 限 : 10:40~12:10
- 昼休み : 12:10~13:00
- 3 限 : 13:00~14:30
- 4 限 : 14:40~16:10
- 5 限 : 16:20~17:50

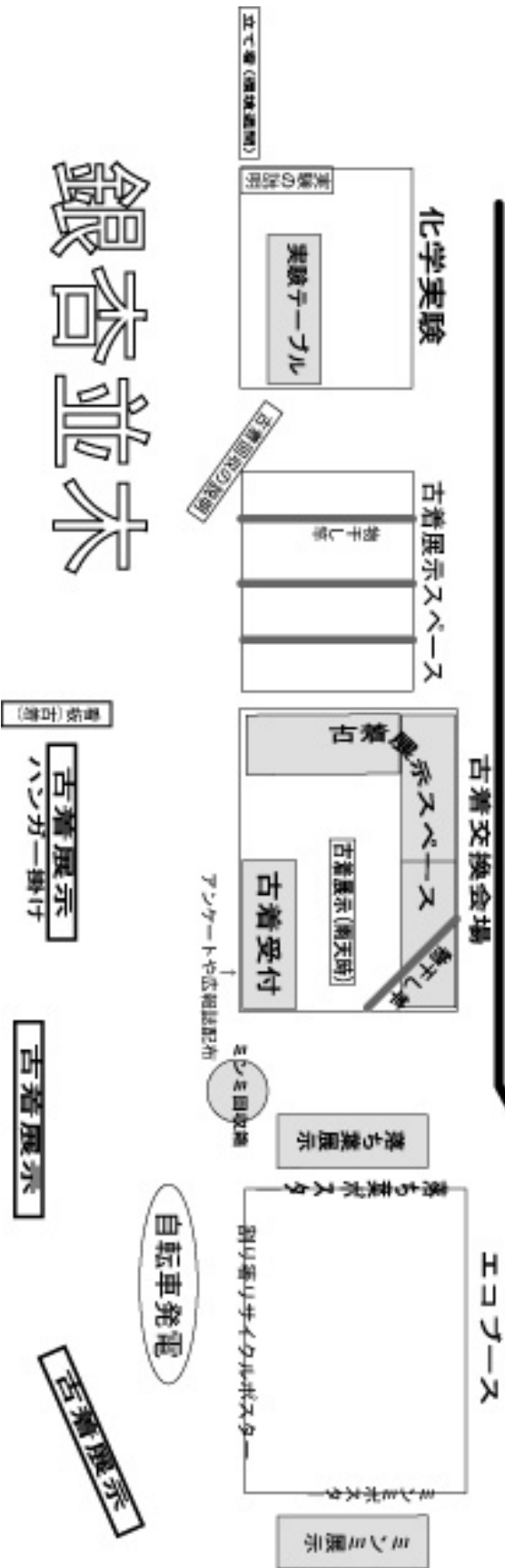
6. 開催場所

銀杏並木での企画は以下のような配置で行いました。



二丁目分館

生協



銀杏並木

7. 開催までの道のり

2002 年 10 月：環境週間の構想が出される。

内部用企画書を作成して問題点を話し合う(22 日)

11 月：職員の方との懇談会で大まかなアイデアを提示。意外と良い反応(5 日)

学校の環境週間に合わせて六月に実施する事を決定。(12 日)

理念・目的などを話し合う(26 日)

12 月：企画案のプレストを行い、その中から選考を行い、

「落ち葉関連企画」「回収関連」「生協関連」「広報誌」を

メインの企画として考えていくことに。(17 日)

2003 年 1 月：企画書第一弾作成(各種団体への説明用なので数ページ程度)

(21 日の懇談会で詳細を伝える予定だったが他の活動で環境週間まで手が回らず、電話による話し合いなども数回行なわれた。)

2 月：2 月に入って具体的な内容を一気に進展させた

生協との話し合いで「NO レジ袋キャンペーン」「購買・書籍における環境コーナー」を行なう方向に。

12 月に出ていた企画についても、全メンバーの承認の下で実施を決定し詳細を詰め始める。

広報誌設置許可を頂く。

映画上映会は断念して広報誌へ。

講演会を行うことに。

目黒リサイクルプラザに古着を引き取って頂けることになる。

一斉清掃を教養学部の環境整備日に行うことに決定。

現在の企画内容の大枠と開催日時が決定。

各企画担当者 & 総責任者決定。

生協関連と古着関連のスケジュールリング

環境週間 HP 作成開始

3 月：予定していたビデオ上映会を断念。

教養学部より環境週間実施の許可が正式に下りる。

各企画のコンセプト話し合い

本番までの 1 週間毎のスケジュールを全て決める

新 1 年生への関わらせ方を決める

4 月：他大学との共同広報の話が持ち上がる。

11 期生とともに企画案再考

環境週間 HP 公開。

広報誌のコンテンツ及び原稿担当者決定。

全体ポスターデザイン完成

本番までの全日程を仮決定

化学実験と自転車発電を行なう事を決定。

エコブースでの割り箸や弁当箱の回収決定。

5月：講演会を断念。

プレスリリース開始(～直前まで色々なところに)

生協から立て看板の貸与、卓上POPへの掲載、ポスターの貼付などの許可。

購買部、書籍部の環境コーナーへの入荷商品決定。

生協店内での各種ポスター、立て看作成。

食堂に置く卓上POPの設置許可を頂き、60個作成。

生協の学生が発行している冊子『CKiEX』5月号に環境週間広告掲載。

一斉清掃実施。ポスター、卓上POP完成。

落ち葉堆肥化実験公開詳細内容確定。

広報誌完成。

東大新聞による広報を断念。

All-todayi トップページへの広報成功。

6月：アンケート作成&実施。

古着回収受付開始。

各種パネルなど作成(龐大な手間と時間…)

直前準備+本番。

7月：合同報告会実施。

8. お世話になった団体

今回の環境週間を行なうにあたり多くの方々にお世話になりました。
この場をかりて厚く御礼申し上げます。

- ◆ エコ・リーグ(全国環境青年連盟)
- ◆ (株)安村
- ◆ 慶応大学環境サークル E. C. O
- ◆ 東京大学化学部
- ◆ 東京大学環境委員会
- ◆ 東京大学教養学部
- ◆ 東京大学消費生活協同組合
- ◆ 東大生協駒場学生委員会(C学)
- ◆ 法政大学キャンパス・エコロジー・フォーラム
- ◆ 目黒リサイクルプラザ

(50音順・敬称略)

9. 実施企画一覧

生協入り口での、「生協の環境に対する取り組み」の展示実演

エコブース(落ち葉堆肥化実験や弁当箱&割り箸リサイクルの展示・実演)

アンケートの実施

広報誌『eco-week』発行

落ち葉堆肥化実験公開

化学部による環境実験体験

購買部での環境グッズコーナー

古着回収&無料配布キャンペーン

構内一斉清掃(5月29日)

書籍部での環境本コーナー

NOレジ袋キャンペーン

3大学合同報告会実施

自転車発電体験コーナー

第二部

開催企画詳細



古着回収キャンペーン

文責：榎堀都

●○ 企画概要 ○●

学内外から不要になった衣類等を環境週間前から回収し、環境週間中毎日、気に入ったものがあれば無料で持って行ってもらえるようにテントに陳列しました。また最終的に余ってしまった衣類は、目黒リサイクルプラザに持ち込み引き取ってもらいました。

●○ 実施期間 ○●

2003年6月16日(月)～20日(金) 12:10～13:30

●○ 実施場所 ○●

16日(月)・・・生協前T字路脇(駒場寮入り口近く)

17日(火)～20日(金)・・・銀杏並木の生協前T字路

●○ 目的 ○●

まだ利用できるのに要らなくなってしまった衣類等をリユースすることで、楽しみながら強く意識せずに環境負荷を低減することができ、人との触れ合いを大切にしたり、物を大切にする心を培うことも目的としています。

●○ 企画報告 ○●

◇ 回収 ◇

6月9日(月)～13日(金)・・・キャンパスプラザロビーで昼休み(12:10～13:00)に実施。

6月16日(月)～20日(金)・・・実施場所にて随時受け付け。

また、郵送(環境三四郎宛)でも上記の2週間受け付けました。

回収対象は衣類全般(洗濯済み)、かばんです。

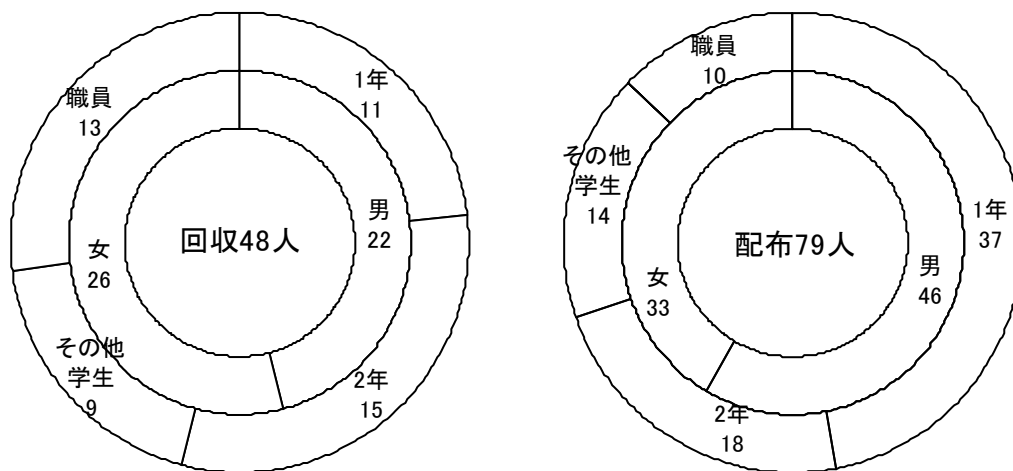
実際業者に引き取ってもらう際には引き取ってもらえる物、もらえない物があるのですが、その選別は煩雑なため、持ってきてくれるものは全て回収するようにし、最終的に目黒リサイクルプラザに持っていくときにこちらで選別するようにしました。かばんは引き取ってもらうことができませんが、企画として需要もあると思い回収することにしました。しかし、捌ききれず余ってしまい、結局処分することになってしまったものも多かったように感じられます。

また、古着を持ってきてくれた人にはお礼として、生協で販売されているグリーン購入法適合商品のクリアファイル1枚とカントリーマアム1枚を差し上げ、郵送して頂いた方(4名)には環境週間当日の写真集を送付しました。

◇ 配布 ◇

16日(月)は生協前T字路脇で、テント1つの中に長机3つと竿1本を設置し、集めた衣類の一部を陳列しました。ここは思っていたよりも人の流れから離れていたため、17日(火)～20日(金)は人通りの多い銀杏並木沿いで、テント2つを使用して行いました。服を詰めすぎないようにする、質の良いものを選んで陳列するといったことに心掛けるようにしましたが、若干、男物の良い衣類が少なく、残念な思いをさせてしまったことはありました。また梅雨の時期と重なり雨が多く、そのときはテントの中だけの陳列となりましたが、晴れたときはテントの前に机を並べたり、テントの屋根を取るなど、できるだけオープンな形で行い、気軽に見てもらえるようにしました。

◇ 古着回収・配布人数 ◇



◇ 古着回収・配布一覧 ◇

	開始時	16日		17日		18日		19日		20日		終了時
		回収	配布	回収	配布	回収	配布	回収	配布	回収	配布	
ブラウス(長)	14		1		1	8	2		4	7	9	12
ブラウス(半)	3		1			3				9	10	4
ポロシャツ(長)	1			1					2			0
ポロシャツ(半)	9				1	1	2			4	1	10
Tシャツ(長)	3	2	5		2	14	1	6	1	23	8	31
Tシャツ(半)	27	8	5		3	18	10	3	12	8	16	18
ジーンズ	6	1			1	6		1	1	4	8	8
ズボン	7	3	1			4		5	1	4	2	19
ショートパンツ	9	2				2	1	1	2	1	1	11
スカート	4	1				5		2	3	3	3	9
セーター、トレーナー	17	2			2	11	1	15	4	7	5	40
ニット(半そで、ノースリーブ)	7				1	7		5	2		3	13
スーツ	1					1				2		4
ワンピース	4				1	1		1		8	3	10
マフラー	2				1				1			0
鞆(ポーチ)	2	2			1	5		3		3	3	11
コート	3				2	3	1	1		1	1	4
カーディガン、ジャケット	14				1	9	3	10	3		4	22
チェーン、ベルト	1		1			1				1		2
靴、帽子、その他						1				4	1	4
合計	134	21	14	1	17	100	21	53	36	89	78	232

◇ リサイクルプラザへの持ち込み ◇

前述の通り、余った古着を選別して引き取ってもらえる物だけを目黒リサイクルプラザへ持参しました。目黒リサイクルプラザでは定期的に古着交換会を行っており、回収業者に引き取ってもらっているため、今回お願いして一緒に引き取ってもらうようにしました。

◇ 当日の写真 ◇



●○ 開催までの道のり ○●

- 2002年12月 古着回収キャンペーンの構想が出される。
- 2003年2月上旬 「駒場住区町作り部会(03-3468-5631)」、「駒場リサイクルの会(03-3460-6549)」、回収業者の「小島繊維(03-3891-1359)」などに古着回収についてお話を伺う。
- 2月20日 目黒リサイクルプラザで引き取りについての相談を行う。その結果、余った古着は回収できるものは引き取ってくれることに。
- 3月8日 コンセプト、開催場所・方法、回収方法(郵送可)を決定。同じ場所でミンミ・リ・リパックと割箸の回収を行うことも決定。
- 5月14日 お礼決定。
- 5月末 雨天時の開催場所として、11,12,13号館ロビー、または6,7号館の使用を学生課に申請。しかし、結局雨天時もテントで行うこと

に決定。

6月9日 古着回収開始。(キャンパスプラザロビーにて)

6月14日 テント設置。古着分別。

6月16日 環境週間。

↳ 11時から展示など準備開始。

20日 13時30分から片付け開始。

6月21日 選別後、目黒リサイクルプラザへ持参。

●○ 考察 ○●

この企画を行うにあたって、まず心配されたのが、古着が集まるのかということでした。少しでも集まるように、そして、環境週間そのもののアピールとしても、開催1週間前から回収を始めましたが、事前回収はやはりなかなか集まりにくかったものの、開催には十分な量が集めることができました。また、HPを見ての郵送があったり、環境週間中も続々と集まったのは良かったと思います。そこで問題になるのが集まった古着の管理です。最終的に多くの古着が余ってしまいましたが、開催中「男物が少ない」「古着の展示しすぎ」といった声が聞かれたり、梅雨時で雨が多く展示が難しいということもあり、質の良いものを中心に上手くディスプレイすることが必要でした。そのためにも、毎日集まる古着をきっちりと分別して管理することが大切になります。また、晴れたときはテントの屋根を取ったり、机をテントの外に出したりと、できるだけオープンに展示することを心掛けることも、多くの人に見てもらうためには重要です。

今回はほしい古着は無料でもって行ってもらうことにしていましたが、それでは貰い手のほうに気が引ける面もあったようなので、考える必要がありそうです。

●○ 今後の展望 ○●

環境週間自体初の試みで、回収・配布の延べ人数はそれほど多いというものではありませんでした。しかし、昼休みに人通りの多い場所で開催したため、かなりの人の目を引いたことと思われます。次回行う際は多くの回収・配布が見込まれると思いますので、上手く管理していく必要があります。そして、今回は環境週間中毎日行っていたため、マンネリ化した感じもあります。また、環境週間の一企画という認識があまりされていなかったようにも思えます。今後はそういったマンネリ感をなくし、きっちりとした環境週間の一イベントとして捉えられるように、短期間で行うなどする必要も出てくるかと思いますが、そうすれば尚更、インパクトを与えメリハリのある企画にしていかなければいけないと思

います。

●○ 費用 ○●

お礼（クリアファイル 10 枚入×3 組、カントリーマアム）…1096 円
レンタカー代…5775 円

合計…6871 円

●○ 協力団体 ○●

慶應義塾大学環境サークル E. C. O. …古着を提供して頂きました。
目黒リサイクルプラザ…余った古着を引き取って頂きました。

●○ 企画担当者 ○●

理科 1 類 2 年 榎堀都

生協での環境グッズ・ 環境本コーナー

文責：桐生朋文

企画概要

生協の購買部と書籍部において、環境配慮型製品や環境に関する書籍を集めた「環境グッズコーナー」および「環境本コーナー」を設置した。

実施期間

2003年6月16日(月)～ 2週間程度

実施場所

生協購買部(向かって一番左の棚)

生協書籍部(中央の平台)

目的

環境配慮型製品の販売が促進されることによる実質的な環境負荷低減は勿論のこと、学生にとって最も身近な施設の一つである生協という場においてこのような企画を行なうことによって学生の環境意識向上も目的としました。また、環境週間そのものの知名度も大きくなることによって他の企画に相乗効果を生みだすことも目的としました。

企画報告

日程に関する詳しい情報は「開催までの道のり」を参照して頂きたいのですが、大まかな流れとして【企画案提案(11月頃)】 【企画書提出(1月頃)】 【店長様との企画内容の話し合い&企画書再提出の繰り返し(2月~5月)】 【入荷希望商品一覧提出&選定(5月頃)】 【商品入荷&レイアウト作り(6月)】という流れでした。

商品や本の入荷や予算的な面は基本的に全て生協側が行なって下さったので、三四郎として行なったことは入荷するものの希望を出すこととレイアウト、全体の調整などです。物品(パネルや針金など)の貸与もして頂けたので、金銭的負担も殆どありませんでした。

以下、購買部と書籍部に分けて詳細を報告します。

購買部の環境グッズコーナー

当日の様子

生協の職員の方々のご好意もあって、環境グッズコーナーはかなり目立つようにしていたと思います。昼休みに様子を見てみると、多くの方が興味を示してくれている様子が分かりました。当初は「どうせ売れないだろうから」という理由で三四郎メンバーが購入して貸与展示という形になったロータリーバッテリーチャージャーやソーラーギアも予想外の人気で、店員の方に問い合わせで自ら購入した人も4~5名いたとの話です。

商品選定基準

一口に「環境配慮型商品」といってもその定義は様々なのでどのように商品を選定するかはかなり迷いました。また、棚一段だけとはいえそのスペース全てを埋めるだけの数の商品を自分達で選定するのも無理があったため、商品の仕入先や既に店舗にある商品の数などを考えて、文房具をメインに購買部の店長様に商品の選定をお願いし、三四郎としてはそれ以外の「目玉商品」といえる部分を選ぶことにしました。

どのような点で環境に配慮しているのかという点以外にも、人目を引く事が出来るかどうか、純粋に使いたくなるようなものか、入荷は現実的か(例えば海外限定の商品などは仕入れるのは無理)などを基準としてメンバーに分担していくつかの商品をインターネットなどで調べてきてもらい、ミーティングでそれらの商品に仕入れて欲しい優先順位をつける形にしました。具体的に挙がった商品がゴリは下記の「開催までの道のり5月7日」をご覧ください。商品の詳細は割愛させていただきます。

展示スペースなども考慮した結果、次の「販売商品一覧」に記載した商品を販売・展示することになりました。

販売商品一覧

- エコ文具(文房具がメインではありましたが、文房具の選定は全て生協にお願いしたので全ての詳しい商品名は分かりません。)
- ロータリーバッテリーチャージャー(手回し携帯電話充電器)
- ソーラーギア(太陽光携帯電話充電器)
- 箸及び箸入れ(「マイ箸キャンペーン」として)
- エコバッグ(「マイバッグキャンペーン」として)

これに加えて、広報誌『eco-week』も設置した。

なお、写真最上部にあるヌイグルミは携帯電話を持たせる際に使った三四郎の私物であり、販売していたものではありません。また、ソーラーギアのパンフレットは(株)太陽工房様よりいただきました。ロータリーバッテリーチャージャーなどは盗難防止にワイヤーで固定して展示しました。

当日の写真



書籍部の環境本コーナー

当日の様子

こちら書籍部店長様のご好意により、本来ならば期間毎の特設コーナーに使っている平積み用の台(以下、平台)の一面を環境週間のために使わせて頂きました。書籍部に入ってすぐに目に付くところに環境本コーナーを設置していただき、予想以上の学生が興味を示してくれていたようでした。無料で置いていた『テーマ講義「環境の世紀」講義録ダイジェスト版』は当初の予定であった20部がすぐになくなり、合計で80部近くが持って行ってもらえました。販売していた本について準備段階から訪ねてきた学生もいました。

書籍選定基準

こちら選定基準をどのようにするか迷いました。「環境に関する本」というものの定義は当然出来ないし、置ける本の数が約30種類とかなり限られていました。話し合った結果、せっかく講義録を置いているのだからそれとリンクさせようということで、「テーマ講義『環境の世紀』」の講師の方の推薦図書の販売する事にしました。それ以外には、完全にメンバーの主観で「三四郎メンバーお薦め環境本」を選び販売しました。具体的な入荷書籍内容は下記の「販売書籍一覧」をご覧ください。

なお、『白色度70が丁度良い』(オフィス町内会)につきましては、オフィス町内会様のご好意により贈与していただいたものを販売しました。

書評

「三四郎メンバーお薦め環境本」のうち、『環境と健康 誤解・常識・非常識』(安井至)、『環境リスク論』(中西準子)、『新・環境学が分かる』(朝日新聞社)、『地球環境報告』(石弘之)、については環境三四郎メンバーが紹介文を書きました。(写真で、縦置きの本の横に貼ってあるものです。)以下にその文章を掲載します。

環境と健康 誤解・常識・非常識

リサイクル、環境ホルモン、電磁波、マイナスイオンなど普段良く耳にするけれどもその実良くわかってないものは多い。そういうものは「わざわざ宣伝文句にするくらいならいいものなのだろう」とか「みんな悪いって言うてるから、悪いものなんだろう」とか、何となく雰囲気善し悪しを判断しているような気がする。

この本はそんな姿勢に待ったをかけ、本当のところはどうなのかを、A君、B君、C先生の対話形式でわかりやすく解説している。意外な事実に驚かされることも多く、読み終わったあとだれかに話したくなること請け合いだ。題材が身近で生活に密着しているので環境問題にあまり興味のない人にもお勧めできる。

また今年の一月に続編も発売されたので、気にいったらそちらも読んでみては。

安井至 著 丸善

(1年・青山俊輔)

環境リスク論

環境問題に興味を持ち始めていた僕はこの本を人に薦められて手にとり……。ある事実に気づかされ衝撃が走った。「ある程度のリスクは許容せざるを得ない」のだ。それまでそのことまるで考えないで環境環境と言っていたのがバカらしく思えた。これは妥協ではない。読めばわかる。

リスク論の何たるか、その有用性や必要性、政策への応用などを、水俣病などの具体例を使って論理的に解説している名著である。

中西準子 著 岩波書店

(1年・青山俊輔)

新・環境学が分かる

環境問題を学びたいと思っても、世の中には環境問題に関する本が数多く出回っており、何を讀んだらいいのかわからないと感じる人もいます。

そんな人にお勧めなのがこの「新環境学がわかる」です。本書では、まず環境問題に関わる30人程度の人の意見や研究が3～7Pにわたって紹介されています。さらに環境問題に関するキーワードが解説されており、また環境問題を学ぶための本が紹介されているため、環境問題を学ぶ上での良い入門書だと思います。

A E R A M O O K 1999年 朝日新聞社

(1年・田辺祐輔)

地球環境報告

今地球上でどのような環境問題が起きているのでしょうか。その状況を著者が現場調査によって克明に報告している。

例えば、砂漠化や汚染化学物質や飢餓といった問題が報告されており、それらの問題のつながりについても述べられている。

本書を読めば環境問題の解決法がよくわかるというわけではないが、地球環境問題の具体的状況を少しでも知ることはできるでしょう。

石弘之著 1988年、1998年 岩波書店

(1年・田辺祐輔)

販売書籍一覧

(テーマ講義『環境の世紀X』教官オススメ本)

書籍名	著者	出版社
沈黙の春	レイチェル・カーソン	新潮文庫
エコノミーとエコロジー	玉野井芳郎	みすず書房
「循環型社会」を問う	エントロピー学会編	藤原書房
循環型社会を創る	〃	〃
野生のうたが聞こえる	アルド・レオポルド	講談社学術文庫
スロー・イズ・ビューティフル	辻信一	平凡社
自然へのまなざし	岸由二	紀伊国屋書店
メディア・コントロール 正義なき民主主義	N.チョムスキー	集英社新書
チョムスキー、世界を語る	〃	トランスビュー
地球白書	クレストファー・フレイヴィン	家の光協会
入門地球環境政治	ジャネット・ブラウン他	有斐閣
リスク対リスク	グラハム	昭和堂
谷中村滅亡史	荒畑寒村	岩波文庫
苦海浄土	石牟社道子	講談社文庫
複雑さに挑む科学	柳井晴夫・岩坪秀一	講談社ブルーバックス
地域の生態学	武内和彦	朝倉書店
自然を守るとはどういうことか	守山弘	農文協
地球温暖化	伊藤公紀	日本評論社
水俣病	原田正純	岩波新書
水問題原論 増補版	嶋津暉之	北斗出版
北欧の環境戦略と日本	関東弁護士連合会	自治体研究社
どうして郵貯がいけないの	グループ KIKI	北斗出版
地球持続の技術	小宮山宏	岩波新書

(環境三四郎メンバーお薦め環境本)

書籍名	著者	出版社
新・環境学がわかる		朝日新聞社
環境リスク論	中西準子	岩波書店
市民のための環境学入門	安井至	丸善ライブラリー
白色度 70 がちょどいい	オフィス町内会	ぎょうせい出版
地球環境報告	石弘之	岩波新書
地球環境報告	石弘之	岩波新書
環境と健康 誤解・常識・非常識	安井至	丸善

続・環境と健康 誤解・常識・非常識	安井至	丸善
リサイクル幻想	武田邦彦	文春新書
「リサイクル」してはいけない	〃	青春出版社
ゴミと化学物質	酒井伸一	岩波新書
ダイオキシン～神話の終焉～	渡部正 + 林俊郎	日本評論社

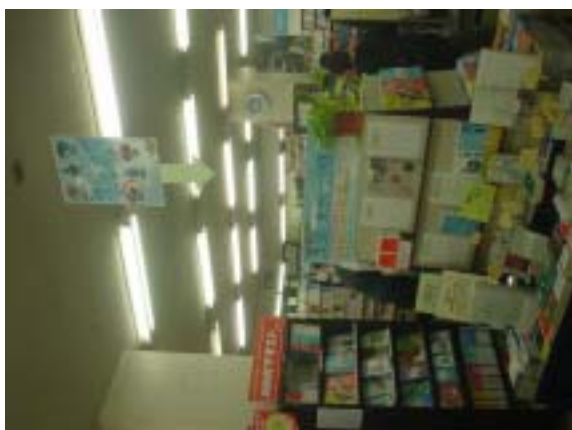
(環境三四郎活動関連書籍)

- ・ 駒場環境総合調査プロジェクト KEEP (Komaba Environmental Examination Project)
- ・ テーマ講義「環境の世紀」講義録ダイジェスト版

これらは無料で配布しました。内容詳細は環境三四郎のホームページをご覧ください。
KEEP 報告書につきましてはホームページより DL 出来ます。

<http://www.sanshiro.ne.jp>

当日の写真



開催までの道のり

2002年	10月中旬	環境週間の構想が出された中で、生協での企画が挙げられた。
	11月上旬	教職員の方々との懇談会(k-net)において環境週間の構想を簡単に説明する。生協の方も参加していたが反応が良かったため本格的な構想に入る。
	12月	具体的内容案を話し合う。実際に今回行ったものの他に、「BGMを流す」なども出された。
2003年	1月21日	この日の懇談会にて生協用企画書を提出。後日、店長さんと細かい話をしていくことに。
	2月18日	翌日の店長さんとのミーティングに向けて東大生協駒場学生委員会(以下C学)の方と打ち合わせ
	2月19日	購買部店長さん、C学メンバー3名を交えての話し合い。実施の許可を頂き、今後の予定、仕事分担などを話し合う。
	3月	細かい連絡は生協と取りつつも、三四郎内部での準備が中心。いつ頃、どのように入荷商品を決めるか、目的、レイアウトはどうか、新一年生に何をやらせるかなどを話し合った。
	4月3日	C学の方を經由して、生協側で決まった内容を踏まえてのミーティング。日時、販売場所、生協と三四郎の仕事分担、広報方法、今後の細かいスケジュールリングなどを行なう。
	4月前半	現在の生協の全商品リストデータをC学より頂く。それを基に商品選定方法を考える。
	4月29日	新歓イベントも兼ねて、渋谷に環境配慮型商品の下見に行く。
	5月7日	三四郎内のミーティングでメンバーが調べてきた商品をもとに入荷商品選定会議を行なう。優先順位順に1、ソーラーパネルを使ったものや、手動で充電できる物などの発電製品。2、持ち箸やNOレジ袋を奨励するために、箸グッズやマイバッグ。3、環境配慮型の団扇や扇子など、環境に優しい夏季グッズ。4、ミニ植物類 ・ エコ容器 ・ パワーパフガールズグッズなどが挙がる。書籍の入荷希望リストも作成する。

- 5月8日 入荷商品に関する購買部・書籍部両方の店長さんとのミーティング。入荷方法の詳細、今後の細かい予定などを話し合い決定させる。
- 5月15日 生協本部の生活環境プロジェクトのミーティングにおいて環境週間の生協企画の詳細の話し合い。再び新企画書作成。
- 5月19日 入荷書籍決定。
- 5月22日 書籍部店長さんと環境本コーナーの詳細についてのミーティング。装飾作成、入荷日などの打ち合わせ。看板作成用のパネル(天井からの吊り下げ用、コーナー上部への設置用)を頂く。
- 6月前半 様々なレイアウト用品の作成。
- 6月14日 環境本コーナー、環境グッズコーナー作成

考察

何より、書籍部及び購買部の店長様並びに職員の方々の多大な御厚意は勿論のこと、企画の全段階において東大生協駒場学生委員会(C学)の方(主に湯浅氏)には大変お世話になりました。彼らの協力があってこそこの企画が出来た過言ではと云ってもありません。例を挙げればきりがありませんので、簡単ではありますがこの場を借りて心からお礼申し上げます。

さてこの生協での企画、今回の環境週間の企画の中では成功した企画の一つと云ってもいいと思います。実際に多くの学生が興味を示してくれて「販売」という目に見える成果を残せたこと以上に、生協やC学などの団体と上手くコラボレーションすることが出来、今後の活動の基盤を作る事が出来た事が大きかったでしょう。

商品選定はもう少ししっかりと話し合うべきでした。「開催の1ヶ月前」という期限があったことから、ろくに「それを売りたい理由」も共有できずに妥協で商品を決めていました。

今後の展望

コラボレーションが出来たといっても、環境三四郎が依頼して生協側が検討するといった一方的な要求に留まっていた気がします。もっと「何をすべきか」という段階から、もっと深い話まで出来るような形での協働を目指すべきだと思います。「全学生を巻き込む」という環境週間の目的について、生協などのような組織と協力することは非常に効果のあ

ることだと思うので、能動的な働きかけを心がけたいと思います。

それからレイアウトというか広報について。これは他の全ての企画にも共通し、今回の環境週間の一番の課題となった部分でもあります。多くの学生にとっては当日になって「あ、何かやってるかも」と気づく状態だったと思います。商品選定にしろ広報やレイアウトにしろ、もっと前もって時間配分を考えるべきでした。この点は是非とも 2004 年度に期待したいです。

費用

特になし。

(ロータリーバッテリーチャージャー、ソーラーギアについては私物として購入したので環境三四郎としての支出ではない。パネルなどは生協からの貸与。インク代などは他の企画でも使っているので計算不可能だが、この企画に関しては殆ど使っていない。)

協力

東京大学消費生活協同組合購買部駒場支店

同書籍部駒場支店

東大生協駒場学生委員会(通称 C 学)

企画担当者

理科 2 類 2 年 桐生 朋文



エコブース



文責：渡部 春奈

企画概要

生協の弁当箱「ミンミ・リ・パック」や割り箸のリサイクル過程を展示する他、落ち葉堆肥化の取り組みを紹介した。弁当箱と割り箸の回収箱も設置。

実施期間

2003年6月16日(月)～20日(金) 12:10～13:30

実施場所

銀杏並木の生協前T字路脇

目的

生協によるリサイクルの取り組みや落ち葉堆肥化活動について、より多くの人に知ってもらうため。特に弁当箱や割り箸については、回収率向上に貢献することを狙った。

企画報告

弁当箱と割り箸のリサイクルについて

製作はC学の湯浅氏に依頼。模造紙にパソコンで製作した文字やイラストを貼り付けたもので、回収から再生品化までを展示した。(同様のものを生協のコンコースにも展示) 弁当の実物も展示し、フィルム剥がしを体験してもらおうと試みたが、やってくれた一般学生はいない。

落ち葉堆肥化について

形式は上記に同じ。落ち葉堆肥化を始めた経緯と目的、堆肥化の過程について展示した。堆肥化の過程については落ち葉、現在の堆肥、完成した堆肥の3段階を段ボールに入れて実物展示も行った。

当日の反応

始めはテント内に展示を張っていたが、閉鎖的で人が入り難い状態だったので、途中からテントの周りに模造紙を貼り、外側に長机を置いて弁当箱や落ち葉を展示した。しかしエコブースまで人員が確保できなかったため、呼びかけや見ている人への説明はほとんど行えなかった。

物品について

風雨からテントを守るためにテントの周りに張るビニールシート数千円相当を生協より頂けたことによって費用面でかなりの節約が出来た。この場を借りてお礼申し上げたい。また、テントは新品の物を東京大学教養学部より貸与して頂いた。

当日の写真





開催までの道のり

2003年 4月末 古着回収場所を利用したエコブース構想が出る

6月11日 ミンミ、割り箸のパネルはC学の湯浅氏に生協コンコース用を複製してもらえるよう依頼。エコブースのレイアウトについて検討。この時点で担当者未定。

14~15日 落ち葉堆肥化用パネル作成。担当者決定。

当日 直前まで設営作業。開催後も色々と手直しを行う。ミンミ、割り箸回収箱設置。

考察

今回の企画の中で、最も中途半端で多くの課題が残ったものとなった。エコブースへ立ち寄ってパネルを読んでもくれた人はほとんどなく、こちらも展示するだけで放置する状態になってしまった。製作段階からして、急遽パネル製作をC学にお願いしたり、直前に担当者が決まるなどいい加減だったと思う。古着回収のおまけと言うことで後回しにされていたため、内容も十分人目を引くものではなかった。

企画が出された時点で担当者を決めて、早期に内容を吟味するべきであっただろう。また、展示形式はよほど関心がある人でないと立ち寄り難い事がよく分かった。形式自体考え直すべきだったのかもしれない。

今後の展望

見通しはあまり明るくない。来年も行うなら、いかに関心をもってもらうか工夫する必要がある。

協力団体

パネル製作...東大生協駒場学生委員会(通称C学)湯浅孝行氏

作成場所提供...東京大学消費生活協同組合

企画担当者

当日のパネル設置などは渡部が担当した。

自転車発電体験

文責：桐生朋文

●○ 企画概要 ○●

自転車発電機を利用して一般学生に発電を体験してもらいました。やってくれた人には電気を作る大切さと節電を呼びかけるビラを配りました。

●○ 実施期間 ○●

2003年6月16日(月)～20日(金) 12:10～13:30

●○ 実施場所 ○●

16日(月)・・・生協前T字路脇(駒場寮入り口近く)

17日(火)～20日(金)・・・銀杏並木の生協前T字路

●○ 目的 ○●

普段は何気なく使っている電気。「節電」としきりに叫ばれているけれど、あまりに簡単に電気が手に入るため節電の重要性が実感できないというのが実際ではないでしょうか。そこで、実際に発電機を回して発電を行ってもらい、さらに自分の作った電力と日常で消費している電力を比較してもらうことで、発電の仕組みやそこにかかるエネルギーの多さを実感してもらいライフスタイルの見直しをしてもらう事を目的としました。

●○ 企画報告 ○●

当日は路上に自転車発電機を置いて、通行人に声を掛けて体験してもらいました。そして、体験してくれた人にはビラ(後述)を渡しました。

いきなり声を掛けてもやってくれる人は少ないと思ったので、まずはメンバーが実際にやっているところを見せ、興味を持ってくれた人に声を掛けるようにしました。

だが、一日目はテントの前でまん前で行なった上に、三四郎メンバーがかなり集まっていたので一般学生が近寄りやすい雰囲気を作り出していました。その反省を踏まえて、二日目以降はテントの横など邪魔にならない場所に自転車発電コーナーを設け、なるべく三四郎メンバーは取り囲んだりしないように促しました。

発電によって扇風機をまわし、その風を自分で受けるという視覚的に見て面白いようにしたので通り過ぎる学生の反応は良かったです。また、実際に体験してもらった人の感想

も「楽しかった」といった声が多く、周囲のエコブースの宣伝にも効果的であったように思います。

期間中、自転車発電機の設置方法が良く分からないために絶えず担当がいなければならない、ということにならないように内部向けにマニュアルを作成したので以下に記載します。

◇ 自転車発電マニュアル ◇

自転車発電機マニュアル(環境週間 2003)

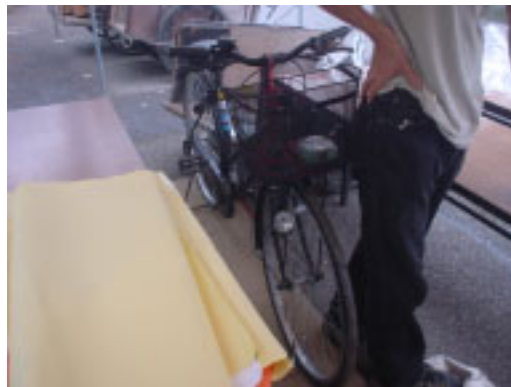
Ver. 20030615

☆用意するもの

- 動かすもの(扇風機、テレビ、ラジオ等)(写真1)
- プラスドライバー
- 自転車の鍵
- 配付用の黄緑のプリント
- 自転車+オルタネーター+制御ボックス(写真2)
- インバーター(写真3)



(写真1)



(写真2)



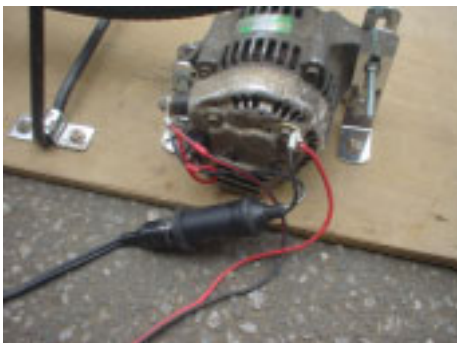
(写真3)

☆セッティング

- ・インバーター、ナツメ球（制御ボックス）は自転車を漕ぐ人から見える場所に置く。
- ・自転車のスタンド、前輪の板への固定ネジを増し締めする。
- ・ダイナモにコードを接続。（ワニ口クリップと普通のコードの端。）
コードの端はダイナモ下部の穴に入れる。
ワニ口クリップはダイナモ取り付け用台座の金属部分。
（こっちが Ground ですね。交流ですが。）



- ・インバーターをオルタネーターに接続。ってか、ソケットに差し込むだけです。



- ・ダイナモのコードが車輪や足に絡まらないように、針金等で適当に取り回します。



- ・ ナツメ球は1個でいいみたいです。(理由は、、、わかんないです。)



- ・ インバーターに動かしたい電化製品を繋ぐ。インバーターと電化製品のスイッチ ON



- ・ ダイナモを車輪に接触させる。



- ・ 後輪とオルタネーターの位置関係はこんな感じがベスト。
写真より、もうちょっとタイヤに食い込ませた方がいいかな。



☆使い方



漕ぐ。漕ぐ。漕ぐ。

オルタネーターにうまく後輪が当たるように、上から押してあげましょう。
馬鹿みたいに速く漕いでも意味無いです。自転車が揺れて力が伝わらないだけです。
必要最低限の力で、長く、静かに、漕ぎましょう。
タイヤがオルタネーター本体に接触しないように。(タイヤが磨り減り、自転車を貸してくれた人が泣きます。)

体験してくれた人に、黄緑色のプリントを渡す。

エネルギーを作り出す事の大変さ、エネルギーの大切さ、普段の生活でどれだけ電気やエネルギーを使用しているのかを、自転車発電の時間と併せて掲示する。

☆トラブルシューティング

(1) ペダルを回転させると、制御ボックスのナツメ球がかすかに点灯する。

点灯しない場合：

ダイナモと制御ボックスの間の接続をチェックする。

制御ボックスにナツメ球がちゃんとささっているかチェック

(2) ペダルを速く回転させると制御ランプが急に明るくなる

明るくならない場合：

ダイナモとオルタネータの間の配線を確認する

制御ボックスとオルタネータの間の配線を確認する

タイヤがオルタネーターにちゃんと当たってるかチェックする

ナツメ球を外す。(勘です。)

(3) インバーターのランプが点灯→電化製品が動く

動かない場合：

インバーターの周りの接続を確認する。

オルタネーターの配線が外れていないか確認する。

いったん発電を止めてから、電気機器を接続して回すと電気機器が動く

安定しない場合：

自転車の回転力が足りない。

うまくオルタネーターとタイヤがかみ合っていないなどの原因が考えられる。

出力を弱くしてちゃんと発電が行われるようであれば、単なる力不足。

テレビの場合には初期に大電流が流れるために、つきが悪いことがある。

数回オンオフを繰り返して挑戦するとつくことがある。

☆自転車発電の仕組みについて（ほぼ丸ごと引用）

今回の発電では自転車を回すと、最初にダイナモから発電が始まり（ナツメ球が暗く付いている状態）、次にオルタネーターが発電を始める（ナツメ球が急に明るくなる状態）ようになります。電力を供給するメインのモーターはオルタネーターで、ダイナモは単にオルタネーターの起動用に用いているだけです。ちなみにオルタネーターで発電が始まると、ダイナモは外しても発電は続きます。

普通のモーターは、回すだけで電気を生み出しますが、オルタネーターには磁石の代わりに電磁石が使われており、あらかじめ電気を流しておかないと電気を生み出さない仕組みになっています。このため、以上のような複雑な回路を組んだ訳です。ただ、複雑な仕組みになっているおかげで、直流 15V が安定した形で出てくるようになっています。このため電圧変化を気にすることなく電気機器を繋ぐことができるわけです。

ダイナモは交流で発電が行われます。ダイナモの電気は一旦、制御ボックスに送られ、直流に変換されてからオルタネーターへと送られます。ナツメ球は、発電が行われていることのチェックにも用いられていますが、過大な電圧がかかるのを防ぐ意味でも用いられています。

インバーターは、直流 12V を交流 100V に変換するものです。キャンピングカーなどで、バッテリーから家庭で使っている電気機器を動かしたい場合などに用いられます。自作もできるのですが、最近は効率がいいものが安く売られているので、既製品を買ってきました。

このインバーターには、安定回路が内蔵されており、供給側（オルタネーター）の電圧が下がってしまうと、自動的に停止してしまいます。本来はバッテリーが切れそうな時に停止する機能ですが、今回では回転数が低い時や、電気機器の始動時にこうした安定機能が働いてしまいます。辛抱強く何度かスイッチの ON OFF を繰り返してトライしてみてください。

100W の限界は、インバーターの性能の限界もありますが、自転車で十分力を伝え切れていない面もあると思います。特に電球などは始動電流がかなり必要なため、急に自転車が重くなって回転数が落ちてしまいます。

元ネタ URL：自転車発電機マニュアル（鈴木康文氏）

http://www2s.biglobe.ne.jp/~y_suzuki/trendy/bicycle/manual2.htm

*****（以上当日マニュアル）*****

◇ 体験してくれた人へのお礼 ◇

体験してくれた人にはお礼を言ってプリントを渡しました。

文中に出てきている「黄緑色のプリント」として記されているものです。以下にそれを掲載します。

自転車発電の体験はいかがでしたか？

せっかくがんばって発電してもらったのですが、
紙切れ一枚にも値しない発電量
でした。

お疲れさまでした。

A4の紙1枚を製造するために必要なエネルギーは20kcalくらいと言われています。電力でまかなうとすると23Whになります。自転車で70Wの発電をすると20分続けている必要があります。つまり、あなたが苦勞して発電してくれた電気量では、名刺サイズの紙も作れないのです。

次に、エネルギー消費を伴う活動など、代表的なものをあげてみました。電気を作るのがどれだけ大変か分かりますね。

	消費電力量 (wh)	自転車発電が必要な時間
新聞1部	2,526	36 時間 5 分
水道水10リットル	15	0 時間 13 分
電球1時間	60	0 時間 51 分
大型テレビ1時間	250	3 時間 34 分
洗濯1回	342	4 時間 54 分
ガソリン1リットル(車10km)	9,767	139 時間 32 分
レジ袋1枚	112	1 時間 36 分
コピーA4を1枚	23	0 時間 20 分
缶ジュース1本	1,628	23 時間 15 分
米1kg	3,685	52 時間 38 分
肉100g	636	9 時間 5 分
食堂での食事 1000円分	1,243	17 時間 46 分
シャツ1枚(200g)	13,953	199 時間 20 分
風呂沸かし1回	5,901	84 時間 18 分
エアコン1時間	1,000	14 時間 17 分
平均世帯家庭での1日分	36,744	524 時間 55 分

- ・ 無駄につかっている照明・テレビ・エアコンなどありましたら、消しましょう。
- ・ テレビやビデオは、使っていないときにも電力を消費しています。
出来ればコンセントを抜きましょう。
- ・ 効率の悪い家電製品を買うと、効率のいいものに比べて倍以上エネルギーを消費することもあります。
買い換えるときには効率のいい製品を選んだ方が環境によく、さらに電気代が安くなってお徳かも。
- ・ 太陽熱温水器は1日あたり自転車発電 100時間分くらいのエネルギーを活用できます。
自転車発電のつらさ(?)を味わった人は、太陽熱温水器の導入を考えてください。
ちょっと高いですが、太陽光発電もいいですよ。

環境週間中には他にも生協などで
様々な企画が行われているので是非御覧下さい。



環境三四郎

◇ 準備・片付け ◇

11時30分くらいからマニュアルのように行ないました。

電化製品以外は屋外の屋根のあるところ(旧駒場寮入り口)にシートを被せて保管しておき、そこから運び出す形で行ないました。自転車は板に固定したままでした。

準備・片付けとも慣れれば一人で30分程度で十分行なえました。

ただ、保管の際は盗難に十分注意するようにしましょう。他の機材と一緒にビニールシートで見えないように囲い、教養学部の名前で「触るな」と書くなどしました。

◇ 体験人数 ◇

配布したピラの数から考えて、メンバー以外におよそ30人の学生が自転車発電を体験してくれたと思いますが、正確な人数は把握できませんでした。

◇ 当日の写真 ◇



●○ 開催までの道のり ○●

2003年 4月23日 自転車発電を行なう案が出される。

6月4日 化学実験と組み合わせて行う事を断念。

6月上旬 自転車発電機をお借りする。
シミュレーションを行い、扇風機を動かすことに決定。
自転車発電機を固定する台を作成
体験者に配るピラを作成

6月15日 自転車発電のマニュアルを作成

6月16日 環境週間本番。雨天時は木の下で行い、晴天時は路上で行なった。

） 11時から展示など準備開始。

20日 13時30分から片付け開始。

6月21日 自転車発電機を持ち主の川出様に郵送してお返しした。

7月中旬 川出様にお礼の手紙と写真をお送りした。

●○ 考察 ○●

自転車発電の体験コーナー事態は前年度の駒場祭で一度行なったものでした。そのため、環境週間の企画案のプレストを行なった際に出たすぐに出てきたものの、他の企画の準備に追われてしっかりと話し合いをする事が出来ず本番を迎えてしまいました。明確に企画担当者を決めることもせず、ピラだけ作ってその場の雰囲気で行ってしまった感じがあります。

でも結果を見ればかなり人目を引いていたのは事実でした。「あ、何かオモシロイことやってる」といった気持ちで近づいてくる人もいて、多少なりともエコブースに近づきやすい雰囲気作りには寄与したのではないのでしょうか。もっとも、本来の目的である「電気の大切さを訴え、節電を呼びかける」といった面での効果は薄かったように感じました。

自転車発電の周りに三四郎メンバーがたむろっていたのも大きな問題でした。自転車発電だけでなく、古着やエコブースへの入り口を塞ぐ形になってしまい、かなり近づき難い印象を与えていました。その反省を生かして二日目以降はマニュアルを作ったうえでメンバーに注意を促しました。また、自転車発電の位置も変えました。その結果、古着回収や化学実験のテントにも人が入るようになりました。

準備不足というのは、そういった問題が生じてしまった原因の一つでもありましよう。

人目を引いていた分、あまり有効活用できなかったのが悔やまれます。

●○ 今後の展望 ○●

発電量の目安や節電の呼びかけはビラにしか記載していなかったため、体験をしてくれた人にしかその内容を伝える事が出来ませんでした。また、発電の仕組みについてはマニュアルにしか書いていなかったためメンバー内でも知らなかった人が多かったと思われます。

発電の仕組みから各種電力消費量、節電の必要性など、もっとエネルギー問題という観点から全員にアピールできるようポスターや説明を行なっても良かったように思います。そうした企画の中で発電にかかるエネルギーの多さを実感させるツール、自転車発電事態はそのくらいの位置づけに出来るよう周辺企画を充実させていけたらいいと思います。

●○ 費用 ○●

ビラ印刷代…150 円

自転車発電機郵送料…1270 円

合計…1420 円

●○ 協力してくれた方 ○●

川出光春様……………自転車発電機を無償にて貸与して頂きました。

●○ 企画担当者 ○●

理科 1 類 2 年 佐藤宗彦

生協の環境に対する 取り組み展示

文責：桐生 朋文

●○ 企画概要 ○●

生協入り口の各種企画スペース(通称コンコース)において、生協の環境に対する取り組み、資源ごみのフロー展示、企業の方をお呼びしてのリサイクルトナーカートリッジの説明、実演などを行なった。

●○ 実施期間 ○●

2003年6月16日(月)～20日(金) 終日

●○ 実施場所 ○●

生協購買部入り口

●○ 目的 ○●

生協の環境への取り組みやごみの行方や現状について、より多くの人に知ってもらうため。それによる一般学生の意識の向上、資源ごみの回収率や分別率の向上を目的とした。

●○ 企画報告 ○●

東大生協駒場支店の購買部には、入り口を入れてすぐに様々な企画が行なわれる「コンコース」と呼ばれるスペースがあります。自動車学校の説明会、携帯電話の販売、新製品のキャンペーンなどが行なわれています。そのスペースを今回、環境週間のために特別に使わせていただき様々な展示・実演を行ないました。

◇ 生協の方の協力 ◇

当初は壁面のスペースを使わせていただく許可だけもらい、C学の方と協力しながらリサイクルフローに関するパネルを作成して展示する予定でした。

ですが環境三四郎側からの依頼は全く無かったにも関わらず生協の方のご厚意により、メーカーの方を実際にお呼びいただいたの説明会やクイズ、リサイクル製品の実物展示や資源回収なども行なって頂きました。そのため本コーナーは非常に賑やかで内容の多いものになり、一般学生へのアピール効果も相当なものだったと思います。

パネルの作成に関しては東大生協駒場学生委員会(以下 C学)の湯浅氏に大変お世話になりました。相当な数のパネルをほぼ一人で作成して頂き、感謝の言葉もありません。

また、これと並行して生協の職員の方に傘のしずく取り機「しずくり〜ん」に張り付いての使い方説明もして頂きました。本来ならば私たちがすべきことであったのに、ここまでのご協力がいただけるとは思ってもみませんでした。深く御礼申し上げます。

◇ 展示・実演内容 ◇

展示・実演内容の一覧です。展示内容の詳細は省略させていただきます。

- 壁面を使っての生協で処理されている廃棄物(割り箸、缶、ビン、ペットボトル、弁当箱、トナーカートリッジ)のリサイクルフロー図の展示
- 生協の環境に対する取り組みをまとめたパネルや環境事業報告書の展示
- 各種メーカーの環境配慮型製品カタログや環境報告書の配布
- プリンターやペットボトルのリサイクルの中間物の実物展示
- ペットボトルやリサイクル弁当箱の回収
- リサイクルトナーカートリッジの回収
- リサイクルトナーカートリッジの製造を行なっている榊安村の方による説明
- 割り箸のリサイクルに関連したクイズ(景品あり)
- 生協職員の方による「しずくり〜ん」の使い方説明

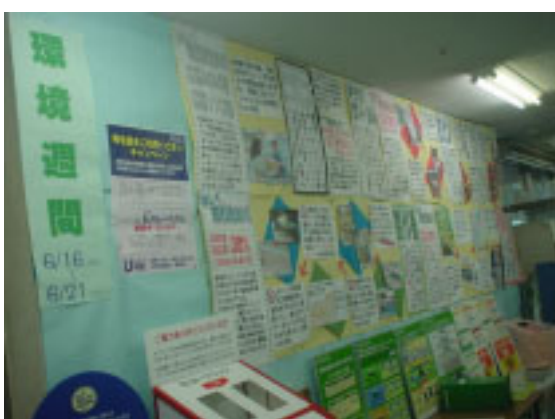
◇ 当日の様子 ◇

詳しくは写真をご覧頂きたいのですが、企業の方の説明もあったため非常に本格的な展示コーナーを作っていました。ただ、入り口側の壁を利用したために店舗から出る時でない目に留まらないこともあって少し気づきにくい形だったかもしれません。中には熱心に展示を見たり説明を聞いてくれたりする学生もいましたが、大半の学生の反応としては大雑把に全体を見る程度だったように感じます。

一日2回ほど、企業の方によるリサイクルトナーカートリッジ使用のデモンストレーションが行なわれたのですが、集まった一般学生は数名でした。もしも店舗に入らず目につく向かいの壁を使用していたらより多くの学生に興味を持ってもらえたと思うので残念です。

◇ 当日の写真 ◇







●○ 開催までの道のり ○●

- | | | |
|-------|-----------|--------------------------|
| 2003年 | 5月中旬 | 生協購買部店長様よりコンコース使用許可をいただく |
| | 6月上旬 | C学湯浅氏にパネルデータを作成して頂く |
| | 6月14, 15日 | パネル作成、コンコース設営 |
| | 6月16日～ | 当日 |

●○ 考察 ○●

企画報告でも述べましたが、生協の方の多大なご協力があったからこそ実現した企画です。再度この場を借りてお礼申し上げます。

正直言って、自分達が予想していたものよりかなり本格的でした。生協には物品面、広報面、いろんな所で本当に生協にはお世話になりました。だからこそ、一般学生の関心が目に見えて高くなかったのは残念です。

環境三四郎内部での反省で出た具体的な意見としては以下のようなものがありました。

- 弁当箱の回収BOXを外に出しても良かった。
- 普段どこにBOXが在るのかを示した方が良かった。
- 入ってすぐのところに矢印をつけるなど、生協コンコースの展示をもっと目立たせるように工夫があれば良かった。
- 生協中まで来なくても気づくような工夫も出来れば良かった。

●○ 今後の展望 ○●

展示内容のクオリティーで言ったら十分に高いものだったと思うので、ここでもやはり「広報」というのが重要になってくると思います。そのためにもまた、私たちが企画段階からもっと積極的に関わって当日の動きを支援する事が必要だと思います。

確かに初めての試みだからつながりを作る事が出来たという面では大きな意味があるのは確かですが、それに妥協することなくよりよいコラボレーションのあり方を来年度以降考えていければと考えています。

●○ 協力団体 ○●

東大生協駒場学生委員会
東京大学消費生活協同組合駒場支店購買部
(株)安村

●○ 企画担当者 ○●

特になし。

落ち葉堆肥化実験公開

文責：渡部 春奈

●○ 企画概要 ○●

落ち葉堆肥化実験の成り立ちや堆肥化の過程について説明した後、実際に「切り返し」という作業を一緒に行ってもらおう。

●○ 実施期間 ○●

2003年6月20日(金) 13:00~14:00

●○ 実施場所 ○●

エコブース(銀杏並木の生協前T字路脇)→堆肥箱設置場所(矢内原公園)

●○ 目的 ○●

落ち葉堆肥化を行っていることを知ってもらい、実際の作業を通して、堆肥化の様子や身近な物質循環の大切さを理解してもらうため。

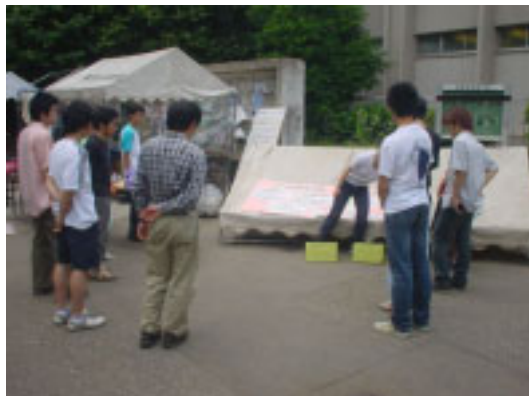
●○ 企画報告 ○●

まずエコブースにおいて、落ち葉堆肥化実験の目的や成り立ち、堆肥化の過程について、パネル展示を使いながら説明。その後、矢内原公園に移動し、「切り返し」を行った。「切り返し」とは、落ち葉を攪拌し、水分や栄養分の調整をすること。今回はスコップで堆肥箱の半分を底までかき回した。

◇ 参加者 ◇

主に三四郎のメンバー。一部、G学や化学部の学生がエコブースでの説明を聞いてくれたようだが、切り返しに参加したのは三四郎のみで、7~8人。

◇ 当日の写真 ◇



●○ 開催までの道のり ○●

2002年12月末 企画ブレストで出された落ち葉堆肥化実験公開が、企画の3本柱として残る。

2003年2月21日 企画三本柱とすることを断念。(やっても一般学生の参加は望めないから) それでも切り返しの必要性から実験公開はすることに。また、パネル展示や広報誌への記事掲載を考える。担当者決定。

5月28日 きゃんえこメンバーに堆肥化実験について、担当者から説明。(当日、各自説明ができるように) 公開実験については、古着回収コーナーなどで宣伝することに。パネル展示をエコブースで行う、実物展示するなどの案が出る。

その後、広報誌へ「公開実験のお知らせ」を掲載。

6月14日頃 パネル作成。

当日 実物展示を作る。

16日 少雨のため、公開実験を18日へ延期。

●○ 考察 ○●

予想通り、一般学生の参加はなかった。古着回収時に宣伝を行うとのことだったが、看板を置いただけで、古着を持っていってくれる人に参加の声掛けをする雰囲気でもなかった。広報誌に宣伝を載せたが、3限中の企画であり、雨で延期もしたので参加しにくい状況だったのは確かだ。とはいえ、もともと土をかき回すだけの企画であり、筆者(担当者)も始めから人を集める努力をしていなかったのがいけなかったのだと思う。

繰り返し自体は三四郎メンバーによって行えたので満足すべきであるが、「堆肥化を行っていること知ってもらう」という目標は達成できなかったので反省すべき点は多い。一番の反省点は、人が来ないから無駄だと思いつつ惰性で企画を推し進め、十分な話し合いもなく実行してしまったことだろう。

●○ 今後の展望 ○●

来年以降やることをお勧めしない。堆肥化の宣伝自体はよいことなので、もっと別の方法をとるべきであろう。

●○ 企画担当者 ○●

渡部 春菜

化学部による環境実験体験

文責：桐生 朋文

●○ 企画概要 ○●

東京大学化学部と協力して燃料電池の展示実演を行った。

●○ 実施期間 ○●

2003年6月16日(月)～20日(金) 12:10～13:30

●○ 実施場所 ○●

銀杏並木の生協前T字路脇

●○ 目的 ○●

現在様々な分野で注目を集めている燃料電池。その仕組み、問題点、可能性などを知ってもらう事を目的としました。またその際、詳しい知識のある化学部と協力することによって実際に燃料電池の展示・実演を行い、燃料電池を身近なものとして感じてもらうことを目的としました。

●○ 企画報告 ○●

この企画はその準備のほぼ全てを化学部に委任する形となってしまう、当サークルではその場所の確保と広報を行なう程度の協力しか出来ませんでした。企画依頼の経緯などは下記の「開催までの道のり」を参照して下さい。

当日は銀杏並木にテントを使ったブースを出し、その中で燃料電池の展示と説明を行なって頂きました。

◇ 当日の様子 ◇

当日は昼休み初めに実験器具をブースまで運んできてもらい設置してもらいました。内部の詳細な写真はありますが、長机の上に燃料電池を置き、机の両側にイスを用意して来た人に説明するといった形で行なって頂きました。燃料電池自体は水酸化ナトリウム水溶液を満たした水槽に電極などをつないだシンプルなものでした。発生させた電気で電子オルゴールを鳴らしました。少し覗いていくだけの人が多かったのですが、中には化学部員の方々と熱心に議論をしている人も見受けられました。ただ、環境三四郎と化学部との間で広報方法に関する情報共有が上手くなされていなかったため、他のブースに比べて目を引きにくかったのは問題だったと思います。

◇ 説明内容詳細 ◇

ブースで説明をして頂く際に使用したポスター(化学部作成)を以下に掲載します。

東京大学教養学部化学部・燃料電池演示実験

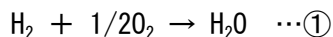
東京大学教養学部化学部は、今回の環境週間にあたって、環境に関する実験として、最近注目を集めている新エネルギー源、燃料電池の作成・展示を行いました。実用できるものができたかどうかはさておき(笑)、どうかご覧下さい。

○ 燃料電池の歴史

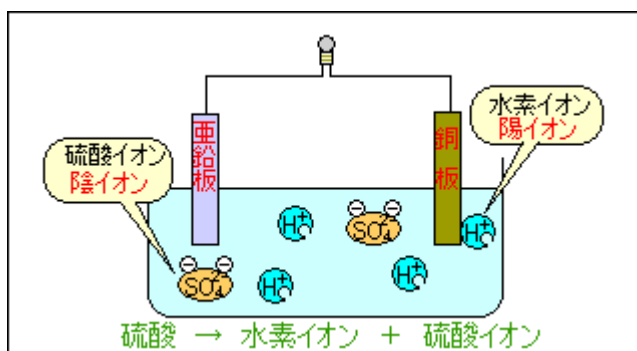
燃料電池は1801年、イギリスのデービー卿によってその原理が発見され、1839年に同じくイギリスのウィリアム・グローブ卿によって世界初の燃料電池実験が行われました。最初の実用電池、ボルタ電池の発明が1800年ですから、燃料電池自体はかなり昔から知られていたことがわかります。1894年にドイツの化学者オストワルトが、熱機関の効率は100%を大きく下回るというカルノー・サイクルの法則が燃料電池には当てはまらないことを指摘すると、燃料電池技術の原理的優位性は高まり、実用化への研究が数多くなされました。しかし、実際に実用電池として用いられるには長い年月を要しました。1932年によやくイギリスのベーコン卿によって動力源としての燃料電池の研究が開始され、後に彼は5kWもの電力を発生できる酸素水素燃料電池の開発に成功、特許も取得しています。1959年にはアメリカのアリス・チャルマース社により世界初の燃料電池自動車が発表されました。そしてついに、燃料電池は宇宙に進出します。1965年、アメリカの有人宇宙船ジェミニ二号において、コンピュータの電力供給に、電解液に水酸化カリウムを用いたアルカリ型燃料電池が搭載されたのです。このとき、反応により生成した水が乗組員の飲料水としても使われ、燃料電池は一躍脚光を浴びます。以降、アメリカの有人宇宙船には常に改良された燃料電池が搭載され続けています。自動車の分野でも、1968年にはGM(ゼネラルモーターズ)社により初の走行可能な燃料電池自動車が開発され、ついに昨年、トヨタ、ホンダから燃料電池の限定販売が行われました(価格は約2億円とか)。また、燃料電池は私たちの家庭生活にも入り込んできています。1972年にはアメリカのTARGET計画に参画した東京ガスによって民生用燃料電池の開発がスタート、1981年には通産省のムーンライト計画により本格的な開発が開始されました。1999年には日本ガス協会により初めて家庭用燃料電池の運転研究が始まり、翌年には燃料電池普及基盤整備事業(ミレニアムプロジェクト)が開始されました。本格的な市場導入は2005年が予定されていて、2020年までには定置用燃料電池1000万kW、燃料電池自動車500万台が導入されるとも言われています。このように、意外に長い歴史を経て研究が進められてきた燃料電池は、もうすぐ私たちの身近な存在になるようとしています。それでは次に、燃料電池のしくみについて述べます。

○ 燃料電池の原理

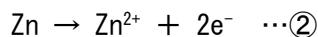
燃料電池には様々な種類のものがありますが、最も代表的なものは燃料として水素を用いた酸素水素型燃料電池です。この燃料電池の化学反応式は、結局のところ次の式で表されます。



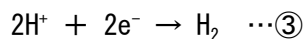
見ての通り、これは「水素の燃焼」と全く同じ反応式です。水素と酸素の混合気体に点火すると大きな音と熱を発生して水が生成する現象をご覧になったことのある方も多いかと思いますが、あの反応において生じる爆発的なエネルギーを、熱エネルギーでなく電気エネルギーとして取り出そうというのが燃料電池の基本的な考え方です。そのためにはどうすればよいのでしょうか？このことを理解するために、まず「電池」の原理を見てみましょう。下は、1800年にボルタによって発明された「ボルタの電池」の模式図です。



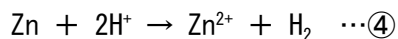
これは希硫酸に銅版と亜鉛版を差し込み、その間を導線でつないだだけのシンプルなものです。これで導線に電流が流れるのですが、さて、なぜこれで電池ができるのでしょうか？今、導線などが無いとして、ただの亜鉛板を希硫酸に突っ込むとどうなるでしょう。そう、水素を発生して溶けます。が、もちろんどこにも電流は流れません。熱が発生するだけです。ここではどのようなことが起こっているのでしょうか。この反応では、亜鉛と硫酸（水素イオン）の間で電子の受け渡し（酸化還元反応）が起こっています。亜鉛は水素よりイオン化傾向（陽イオンへのなりやすさ）が大きいので、電子を放出して亜鉛イオンになります。この反応は、



という反応式で表されます（ e^- は電子です）。一方、亜鉛よりイオン化傾向の低い水素（イオン）は、この電子を受け取って気体の水素になります。この反応式は、

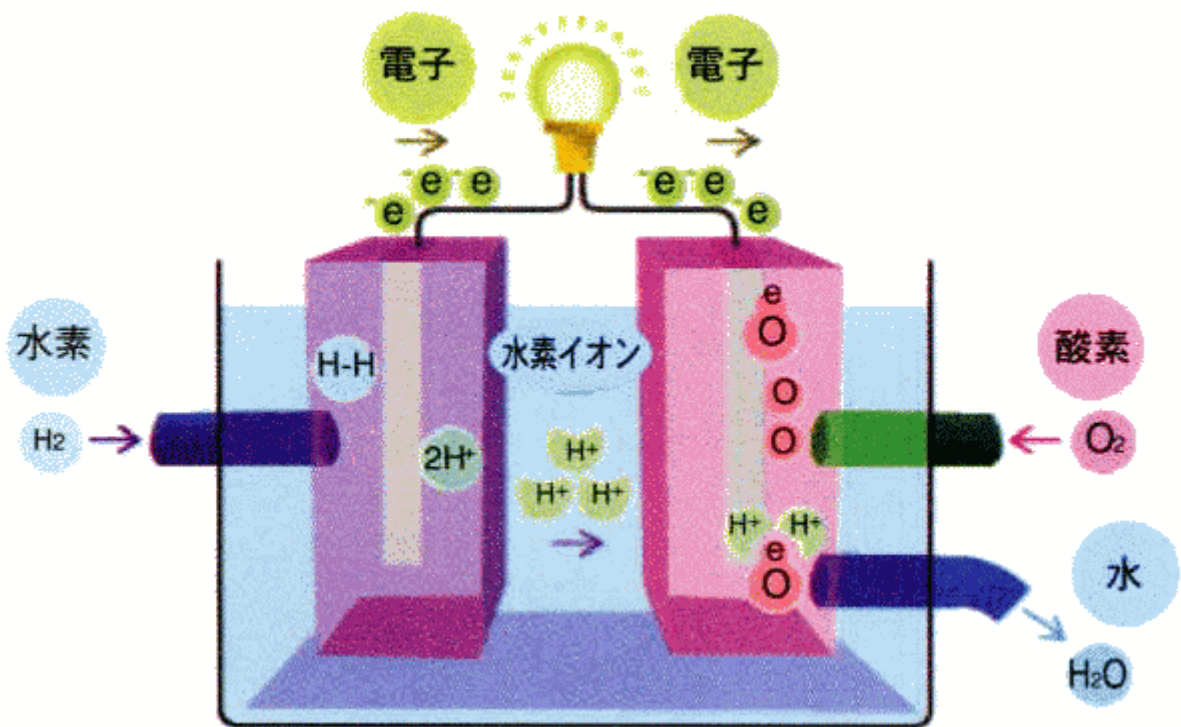


と表されます。一般的に書かれる亜鉛と水素イオンの反応式

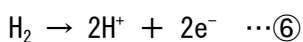
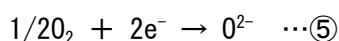


は、②式と③式を合わせたものになっています。この反応式の裏側には実は②③の2つの式が隠れていたのです。では、ボルタの電池はどうでしょうか。ボルタの電池を実際に作って眺めていると、亜鉛板からも確かに多少の水素は発生するのですが、面白いことに銅板の方から水素の発生が見られます。普通銅板を希硫酸に突っ込んでも全く反応は起こりません。それではこれはどうしたことでしょうか。間違いなく言えるのは銅板の表面で

水素の発生（③式）が起きていることです。しかし銅は水素よりイオン化傾向が低く、水素イオンに電子を供給することはありません。では③式の反応の電子は一体どこからやってきたのでしょうか。そうです。導線を通して、②式によって発生した電子が亜鉛板からやってきたのです。すなわち、亜鉛板から銅板に向かっての電子の流れが生じたことになります。電子の流れは、すなわち電流です（実際には昔からの慣習で電子の流れと電流は向きが逆ですが）。これで、ただ亜鉛を硫酸に突っ込んだだけでは熱にしかならなかった④式の反応エネルギーが、電気エネルギーとして取り出せたことになります。ボルタ電池では、②式の反応は亜鉛板表面で、③式の反応は銅板表面で起こっています。一方、亜鉛板を硫酸に突っ込んだときには、②③式の両反応とも亜鉛板表面で起こっています。このように、「1箇所で行われていた電子の受け渡しを離れた場所で行わせ、そのときの電子の流れを電流として得る」のが電池の基本的な原理です。これは燃料電池にもそのまま当てはまります。それではいよいよ、燃料電池の原理について見てみましょう。下は最も一般的な燃料電池であるリン酸型燃料電池の模式図です。



燃料電池では、陽極に酸素、陰極に水素が吹き付けられています。吹き付けられた水素や酸素の一部は、電極（白金、炭素、ニッケルなど）と電子を受け渡しして、イオンとなって溶液中に溶け込みます。このときの陽極、陰極における反応式は、それぞれ



と表されます。（実際には酸化物イオン O^{2-} は直ちに溶液中の水素イオンと結合して水 H_2O となります。）陰極には⑥式によって電子が電極に渡され、その電子は導線を通して陽極に移動、⑤式によって酸素に渡されます。この電子の流れを電流として取り出すのが燃料電池

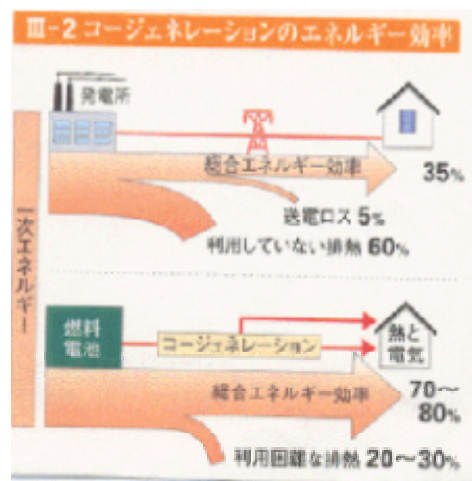
です。⑤式と⑥式を合わせると①式になります。すなわち、これは水素の燃焼反応を、離れた場所で行わせたことになります。これで、水素の燃焼反応で生じるエネルギーを、電気エネルギーとして取り出すことに成功しました。今回化学部が製作した燃料電池は、上で示したようなリン酸型でなく、水酸化ナトリウム水溶液を使ったアルカリ型です。水酸化カリウムを用いたアルカリ型燃料電池が宇宙で使われたことは、先に述べた通りです。電解液がH⁺でなくOH⁻を多く含むので⑤⑥式に若干の変化が起こりますが、①式の反応を起こしているという点では同じです。アルカリ型はリン酸型に比べて稼働温度が低くてすむのが特長です。他にも、融解炭酸塩型燃料電池や、固体高分子型燃料電池といったいくつかの燃料電池が知られています。次に、燃料電池の現状と今後の展望について見ていくことにしましょう。

○ 燃料電池の現状と今後

燃料電池が注目を集めているのは、もちろんエネルギー問題の解決策として有力であると思われているためです。近年、地球温暖化や石油資源の枯渇などの諸エネルギー問題への対策が叫ばれていますが、基本的な対策として考えられるのは「省エネルギー」と「再生可能エネルギーの利用」です。しかし、再生可能エネルギーとして代表的な風力や太陽光発電は、安定した供給が難しいなどの問題があります。そこで登場するのが燃料電池というわけです。燃料電池は一次燃料としてバイオマス（生体由来のエネルギー資源。自然の循環の中で再生が可能。）や再生可能エネルギーなどを利用して水素を貯め、使いたいときに使うことができます。これなら再生可能エネルギーの難点であった供給量の安定性を克服することができ、また持ち前の効率の高さ（約80%）に加えコージェネ（発電の際の廃熱の利用）によりさらにエネルギーを回収でき、温暖化対策の救世主となり得ると考えられています。それでは、現在燃料電池はどのような分野で実用化が検討されているのでしょうか。最近最も話題に上ることが多く、実用化も近いと考えられているのが燃料電池自動車です。1959年に世界初の燃料電池自動車が開発されたものの、その後は開発があまり行われてきませんでした。しかし1994年にダイムラー・クライスラー社が燃料電池の自動車への応用技術を開発すると、燃料電池自動車の開発競争は一気にヒートアップ、国の枠組みを超えた企業提携が行なわれるまでになっていて、数十年後には現在のガソリンエンジン車に取って代わるのでは、とまで言われるようになりました。しかし、燃料電池自動車にはまだいくつかの課題があります。その中でも重要なのは水素の供給源です。もちろん水素を直接供給する方法もありますが、このためには水素を供給するインフラストラクチャーの整備が不可欠で、また水素を適切に貯蔵する方法も確立していないのが現状です。そのため、ダイムラー・クライスラー社はメタノールの改質、GM・トヨタ連合ではガソリンの改質を勧めています。ガソリンを使うのは化石燃料の節約という点から見て好ましくないのは事実です。将来的には化石燃料を使用しない、先に述べた再生可能エネルギーを利用した供給法が望まれますが、それまでの過渡的な措置として化石燃料を使うのはやむを得ないと考えられているようです。（下図は General Motors 社の燃料電池自動車。燃料には液体水素 4.6kg を使用。航続距離 400km。）



次に実用化への検討が進められているのが定置式燃料電池です。定置式燃料電池の適用面での大きな特長は、従来型の発電が大規模集中型発電であるのに対して、小規模分散型発電を可能にすることです。燃料電池は排ガスが水だけなので環境にやさしく、電力消費地である都市部にも設置することが可能です。また小出力でも発電効率が高く、電力需要に対して柔軟に対応できるため、需要のある場所や施設のすぐそばで電力を供給できます。これはオンサイトと呼ばれる発電で、消費地で電力を自給できるため、災害に強い都市づくりに役立つ発電システムとしても期待されています。また、コージェネの利用により熱エネルギーも利用可能となり、結果、燃料電池による発電は非常に高いエネルギー効率を実現することができます（下図）。



既にリン酸型燃料電池は実際に工場やオフィスで試験的運用が行われており、普及も近いと考えられています。燃料電池による発電システムは、エネルギーのリサイクルという点から見ても非常に有力となります。燃料電池の燃料は水素だけに限らず、メタンやメタノールなど多彩な燃料を使用することが可能です。既に下水処理やビール工場などで発生する排メタンガスや、半導体工場が出る排メタノールを原燃料に用いた燃料電池も稼働しており、さらに生ゴミ処理、家畜糞尿、し尿処理などで発生するメタンガス、間伐材から生成したメタノールを燃料電池の原燃料として利用するリサイクル型エネルギーへの展開が図られています。家庭用の定置式燃料電池としては、1~2kW 程度の小型のものとして、固

体高分子型燃料電池の開発が進められていて、現在試験運用段階となっています。私たちの暮らしに深く関わってくる日もそう先ではなさそうです。燃料電池による発電システムを利用して、新しいエネルギー構想を打ち出している国もあります。アイスランドでは、化石燃料は採れないものの、水力や地熱などの再生可能エネルギーが豊富なことから、このエネルギーを利用して水素を得て、アイスランド全体を世界初の水素社会に転換していく計画が進められています。アイスランドでこれが成功すれば、EU 各国もこの展開が可能になるという考えから、アイスランドは20～30年以内に化石燃料の使用を完全にゼロにし、水素社会への転換を図ろうとしているのです。この計画はEUの大きな支援を受けて産学協同で実験が進められていて、EU への水素の輸出も視野に入れて検討されています。世界のエネルギーが燃料電池でまかなわれる日もそう遠くはないかもしれません。

◇ 当日の写真 ◇



●○ 開催までの道のり ○●

- | | |
|------------|--|
| 2003年 4月中旬 | 環境三四郎内のミーティングで、化学部と協力して展示を行なうアイデアが出される。 |
| 4月下旬 | 化学部との話し合いで実施の方向で動き出すことに。
実際にいくつか実験をしてみて内容を決めることに。 |
| 5月上旬 | 燃料電池が第一候補として挙がる。自転車発電で充電は却下。 |
| 5月中旬 | 実験器具作成の問題などから、一度は燃料電池安を却下。
割り箸から紙を作るという案が出される。 |
| 6月上旬 | 紙作りにかかる時間的問題などから、再度燃料電池を検討。
成功して燃料電池を行なって頂くことに。 |
| 前日 | テントを設営し、化学部に報告。
当日の準備は基本的に全てお任せした。 |

※広報については「広報方法」のページを参照してください。

●○ 考察 ○●

何と言っても広報方法が一番の問題だったと思います。アンケート結果報告のページを見てもらえれば分かりますが、化学部による実験は一般学生からの関心はとても高い企画でした。ですが、「場所の確保と事前広報は自分達で行なうので、ブースの展示などは全てお任せしました。」という環境三四郎の声が上手く伝わらず、テントそのものの装飾が殆ど行なわれませんでした。そのため、テントの並びを一見すると古着の方に目を奪われてしまう雰囲気がありました。本企画の協力のために相当な時間を割いて下さった化学部の方には本当に申し訳ないと思っています。

それでも、他団体と協力して一つの企画を行なえたというのは来年度以降につながる大きな成果だったと思います。

●○ 今後の展望 ○●

今年度の反省を踏まえて、如何に人目をひきつける事が出来るかというのが大きな課題になると思います。より多くの団体とのコラボレーションを目指し、ゆくゆくは複数の団体が一同に「環境」をキーワードにしてイベントを行なう事が出来ればと思います。

●○ 協力団体 ○●

東京大学教養学部化学部

NO レジ袋キャンペーン

文責：桐生 朋文

●○ 企画概要 ○●

生協購買部においてレジ袋をもらわない「NO レジ袋キャンペーン」を呼びかけた。

●○ 実施期間 ○●

2003年6月16日(月)～20日(金) ※但し、昼休み時間である12:00～13:00を除く。

●○ 実施場所 ○●

駒場生協購買部

●○ 目的 ○●

東大生協駒場支店では実に年間50万枚以上という膨大な数のレジ袋が使用されているというデータがあります。確かに商品を購入した際にはそれらを入れて持ち運ぶためにレジ袋は必要な存在かもしれません。しかし、学生が生協でする買い物の多くは昼食や文房具などバッグなどで簡単に持ち運べる量のものが多いのも事実です。そのため、レジ袋が必要でない場合はレジ袋をなるべく配布しないようにすることでレジ袋の使用枚数の削減を目的としました。また学生にマイバッグの使用を呼びかけることにより、普段の買い物でも要らないレジ袋はもらわない習慣を身につけてもらう事を目的としました。

●○ 企画報告 ○●

◇ 交渉の経緯 ◇

当初の予定ではレジ袋を受け取らないためのインセンティブを何らかの形で追加することで環境以外のメリットからのレジ袋の削減も狙っていました。その際にどのような経緯で下記の「実施内容」を行なうことになったのかを記します。

■2003年1月

「要らないレジ袋をもらわないようにしよう」という呼びかけはポスターを通じて普段から生協では行なわれていた。だがその呼びかけが一般学生には殆ど知られていない現状を見て、期間限定で構わないのでNOレジ袋キャンペーンを強化しようと考えました。

「こちらで考えている事は、『NOレジ袋レジ』を一つ設置し、そこではレジ袋を配布しない、若しくはレジ袋を貰わなかった学生に対して5円引きを行うなどの経済的イ

ンセンティブを与える、などを考えております。前者につきましては、レジ袋の無いレジが空けば、『レジ袋は要らないから早く清算をしたい』という学生の役に立つとも考えられます。」といった内容の企画書を職員の方との懇談会で提出しました。

その際は「生協側が金銭的に損をするだけの内容になるなら難しいかもしれない」といった内容の返事を頂きました。生協本部で再度検討の上、後日話しあう事になりました。

■2003年2月

本部で検討して頂いた上で、再度生協の店長様と東大生協駒場学生委員会(以下 C学)」の方を交えて話し合いを行ないました。

《環境三四郎側のいくつかの提案》

- ・ NO レジ袋レジの設置
- ・ 袋を断った人への値引き、もしくは割引券や抽選券を配布
- ・ マイバッグ配布

これらのメリットとして、NO レジ袋レジに並ぶ人の数が少なくなればそれだけ早く清算が出来る、長期的に見ればレジ袋使用量削減によるコスト削減。

《生協側の反応》

袋を無くすだけなら簡単。

レジ袋代だけで1年で約100万(1枚約2.5円)。それをコストを減らせれば生協としてもありがたい。

1枚5円としても、6000人いれば3万円。小さい額ではない。券も同様。

お金を動かす事以上に、それによって混雑したらどうしようもない。

習慣をつけるのは1週間では不可能。

よって、半年や1年持続できる(お金を使わない)方法を探していく必要がある。

寧ろ、袋を使う人からお金を取るという案も考えられるが、反発を考えると非現実的。

また、生協で昔実際に研究室用にマイバッグを配ったが、あまり効果がない。

結局、金銭面が関係してくると駒場支店だけでは決断できないので本部で検討してみても後日話し合いの結果を伝えて頂くことになった。

■2003年4月

生協本部との話し合いの結果、

内容：レジ袋を渡さないレーンを1つ作る

時間：昼休み以外終日(混雑のため)

備考：やはりお金が絡む問題のため、上記の内容に落ち着いた。

そのレジが「NO レジ袋専用レジ」を教えるような広告は原則生協で作る。
という結果に落ち着いた。

◇ 実施内容 ◇

環境週間期間中、購買部に5つあるレジのうち1つのレジを「NO レジ袋レジ」としました。そこでは店員さんをお願いして基本的にレジ袋を渡さないようにしてもらいました。また、その事が一般学生にも伝わるようにレジの前に「NO レジ袋レジ」と描いたポスターを吊り下げて広報しました。数十人いらっしゃる購買部の店員の方全員をお願いすることは出来なかったため、店長様に NO レジ袋レジの事を店員の方に伝えてもらうようお願いしました。

但し、大変な混雑が予想される昼休みの時間中は例外としました。

◇ 当日の反応 ◇

企画を提案する段階で「NO レジ袋レジに並ぶ人の数が少なくなればそれだけ早く清算が出来るので NO レジ袋レジに並ぶメリットが一般学生にも出る。」という点を挙げていましたが、実際には他のレジと殆ど差が無かったように思います。

レジ袋を渡さないことを原則としてはいましたが、全ての店員の方が渡さないようにしていたわけではなかったため学生に「NO レジ袋レジ」をあまり意識してもらえなかったこと、混雑時は「NO レジ袋レジ」というポスターに気づきにくいことなどが原因ではなかったと思います。

ですが中には非常に積極的に協力して下さった店員の方もいらっしゃいました。レジ袋を渡されなかった場合あえて「袋を下さい」という学生は少なく、自分の鞆に入れていく学生が多かったように思います。

◇ 当日の写真 ◇



●○ 開催までの道のり ○●

- | | | |
|-------|--------|---|
| 2002年 | 10月中旬 | 環境週間の構想が出された中で、NOレジ袋キャンペーンが挙げられた。 |
| | 11月上旬 | 教職員の方々との懇談会(k-net)において環境週間の構想を簡単に説明する。生協の方も参加していたが反応が良かったため本格的な構想に入る。 |
| 2003年 | 1月21日 | この日の懇談会にて生協用企画書を提出。NOレジ袋キャンペーンの案を提示。後日、店長様と細かい話をしていくことに。 |
| | 2月18日 | 翌日の店長さんとのミーティングに向けてC学の方と打ち合わせ。 |
| | 2月19日 | 購買部店長さん、C学メンバー3名を交えての話し合い。NOレジ袋キャンペーンの詳しい実現可能性などを話し合った。 |
| | 4月3日 | C学の方を経由して、生協側で決まった内容を踏まえてのミーティング。NOレジ袋キャンペーンの内容が決まる。 |
| | 6月17日～ | 本番 |

●○ 考察 ○●

先ずはこのような企画を受け入れてくださった購買部店長様と従業員の方々に心からお礼を申し上げたいと思います。前述の環境グッズ環境本コーナーと同様に他の主体とこのような形でコラボレーションが出来たこと自体大きな成果であったと思います。

今回の場合は、企画は私たちが行ったとしても結局実際に学生に呼びかけて動いてくださったのはすべて生協職員の方々です。期間中にもっと能動的な協力ができればよかったですと思います。また、呼びかけ以外の何らかの取り組みを実施したかったです。今回の話し合いで分かったように生協様の売上に影響が出るようなことは難しいとは考えますが、経済面以外のインセンティブ、長期的に見れば売上にも貢献できる対策、そんなものを考えていければと思います。

●○ 今後の展望 ○●

NOレジ袋キャンペーンは実際の環境負荷についても意識についても実生活に密着したすぐ意義のあることだと思います。より密接な連携をとりながら、出来る事を増やしていこうと思います。

具体例としては、NO レジ袋レジでレジ袋を配らないことの徹底が一番に挙げられるでしょう。ポイント制、値引き制、袋代制などについては来年以降引き続き議論していければと思います。学生の意識が変わってレジ袋の消費量が減少すれば結果的に売り上げはアップする、そういった視点もお互い持つように出来ればと思います。


●○ 協力団体 ○●

東京大学消費生活協同組合購買部

東大生協駒場学生委員会

●○ 企画担当者 ○●

教養学部理科Ⅱ類2年 桐生朋文



環境週間広報誌 「eco week」

文責：尾崎令

●○ 企画概要 ○●

環境週間実施の告知のため、広報誌をつくり、配付した。

広報誌の内容は、環境週間で催される各企画の紹介を主としたが、それに環境に関する記事も加えて、読み物としても楽しんでもらえるよう努力した。

●○ 実施期間 ○●

2003年6月6日 設置

●○ 設置場所 ○●

生協購買部、生協書籍部、食堂、キャンパスプラザロビー、学生会館

●○ 目的 ○●

環境週間の広報

●○ 企画報告 ○●

広報誌は全400部印刷し、そのうち半数の約200部が一般の生徒に手にしてもらうことができた。広報誌を見た人から直接印象を聞く事はできなかったが、アンケートによれば、環境週間の告知という目的にある程度役立ったと思われるし、そう確信している。

なお、広報誌の具体的内容については、実際に広報誌を御覧いただきたい。

◇ 広報誌の写真 ◇



●○ 開催までの道のり ○●

2003年3月 広報誌を作ることが決定

→4月30日 広報誌のコンテンツ決定
まずメンバーに思い付くままに面白そう&必要なコンテンツを挙げてもらい、その中から絞り込んで決めた。楽しそうな意見はたくさん出たが、実現するのは難しいということで却下になったものも多い。

→5月7日 コンテンツの各担当者に原稿依頼
誰がどのページを担当したのかは以下のとおり

- 表紙・裏表紙 ……田辺
- 目次 ……尾崎
- はじめに ……桐生
- 企画紹介 ……桐生
- 古着回収紹介 ……榎堀
- 落ち葉堆肥化 ……渡部
- エコ商品・本紹介 ……桐生、青山、田辺
- 松崎さんインタビュー ……青山
- ゴミ処理解説 ……渡部
- チェックリスト ……福吉

- ジブリから見る環境問題 ……渡部
- 一二郎池 ……尾崎
- エコレシピ° ……榎堀
- 環境問題の相互関係 ……神戸
- 白色度 70 ……濱口
- 三四郎紹介 ……尾崎

→5月14日 仮原稿の提出

実際にはここできっちりとしたビジョンを見せてくれる人は少なく、「何となくこうするつもり」のものが多かった。これはかなり反省すべきポイントで、もっと厳しく締めきり厳守とっておくべきであった。また、メンバーは他にも仕事や用事が多く、期間が短かったかもしれない。

→5月21日 完成原稿の提出

ここでほとんどの原稿が提出されたが、一部の原稿は遅れた。ただし印刷開始までには十分まにあったので、これについては問題なし。

→5月30日 編集の完了

編集は予想以上の時間がかかった。これは原稿を書いてもらう際に指定した書式が遵守されていなかったことが大きい。それと、画像添付やページタイトルまで編集でやることになってしまったのも痛かった。また、編集担当の尾崎がソフトの扱いに慣れていなかったこと、自宅のパソコンが Mac であったため部室のパソコンと相性がよくなかったこともある。なお編集で行った作業は、ページレイアウト、ヘッダーの張り付け、フォント・字体の統一、文章の校正、空白の修飾、などである。

→6月1日 印刷

印刷はEPOの印刷室を借りて行った。EPOでならば印刷代は無料、紙代のみで済む。印刷は尾崎と桐生の二人で行い、全34ページ9枚を印刷するのに5時間強を要した。同時に紙折り機で折る作業まですませた。この日は雨であったが、9枚×400部=3600枚を二人で部室まで持ち帰るのはかなり苦勞した。五月祭期間中で他のメンバーの協力が得られなかったこともあり、来年以降は日程調整をもっとしっかりせねばならない。

→6月5日 冊子化作業完了

印刷して折っても、これ束ねてホチキスで止める作業には意外と時間がかかった。この作業はできるだけ大人数で行いたい。

→6月6日 配付

●○ 考察 ○●

当初は環境週間の広告のみ掲載する予定だった広報誌であるが、それだけではつまらないだろうという思いもあり、ミーティングで色んな案が出たこともあり、随分と内容が増えた。しかし率直に言ってしまえば、それぞれの記事は十分に掘り下げられておらず、文章も稚拙で、あまり面白いとは言えない。

原因はいくつかあるが、やはり原稿完成までの期間が短かったことが挙げられるだろう。しかしただ期限を2倍に延ばしたとしても満足いく内容になったかどうかは疑わしく、原稿にとりかかるまえにもっとモチベーションを高めておくべきであった。また、一年生に原稿を担当してもらったのはよいが、もっとサポートの手を入れるべきだった。

それともう一つ反省しておきたいのは、広報誌の配付方法である。今回配付は、生協などに設置して持って行ってもらうという方法をとったが、この方法では広報誌を手にとってくれる学生の層や人数はかなり限られる。もちろん広報誌だけが広報の手段だったわけではまったくないが、環境週間の「全員が参加する」という理念からいえば、配付方法ももっと広い層の学生に手にとってもらえるよう工夫すべきだったと思う。

●○ 今後の展望 ○●

尾崎からは特になし

●○ 費用 ○●

0円

(印刷はEPOを使ったので無料。紙は学友会から支給されたものを使ったので無料)

●○ 協力団体 ○●

EPO(印刷機を使わせていただいた)

東京大学消費生活共同組合購買部

東京大学消費生活共同組合書籍部

東京大学消費生活共同組合食堂部
学館・キャンパスプラザ運営委員会

(以上、広報誌を設置させて頂いた)

オーチャー松崎様(インタビューにお答えいただいた)

●○ 企画担当者 ○●

理科Ⅱ類2年 尾崎令

構内一斉清掃

文責：桐生 朋文

●○ 企画概要 ○●

学部の環境整備日にあわせて、構内一斉清掃を実施した。

●○ 実施期間 ○●

2003年5月29日(木)

●○ 実施場所 ○●

構内全域

●○ 目的 ○●

実際にキャンパス内の美化に貢献することは勿論、職員と方と協力して作業することによるパートナーシップの構築、一般学生への参加呼びかけによる意識の向上を目的とした。

●○ 企画報告 ○●

◇ 広報方法 ◇

数日前に立て看板を生協前に設置して参加を呼びかけたほか、ホームページ上で参加を呼びかけた。また、教養学部の方では環境整備日の開催と一般学生の参加を呼びかけるポスターを掲示板に張り出した。

◇ 当日の様子 ◇

三四郎による広報が遅れたこと、時間帯が授業中だったことなどもあり、呼びかけにより集まった前期過程生はいなかったように思う。しかし、職員の方や生協の方はかなりの人数がこれに参加しており、3年生以上の学生の姿も散見された。構内清掃は約2時間にわたって行われたが、軍手をしてゴミ袋を持った人たちが学校中で見られたのは印象的だった。

道沿いのごみだけでなく、普段はしっかりと掃除することの無いグラウンドや一二郎池の掃除なども行なった。一号館中庭に捨てられるために集められた各種備品(PC、イスなど)は数百個はあろうかという数だった。

◇ 当日の写真 ◇



●○ 開催までの道のり ○●

2003年 4月 環境整備日にあわせて一斉清掃を行うことに。

5月中旬 広報用の立て看板を生協より貸与して頂く。

5月26日 環境整備日の日程が学校側で決まる。何と3日前になったの決定…。
立て看板を作成しての広報

●○ 考察 ○●

予め学校側の行事として存在していた環境整備日に便乗する形になったので事前準備は最も少ない企画だった。だがそれ故、「取り合えずやってみよう」という雰囲気準備が進められ、他の企画の準備によって蔑ろにされ「何のために行なうのか？」という点を殆ど話さないまま本番を迎える形となってしまった。

3 日前に実施日が決まるという信じられない事態もあって広報も急いで立て看板を作成するのみに終わった。一般学生が集まらないのも十分予測出来た結果であった。

いたずらに負担を増やすだけだったらやらない方が良かったのではないかと確かにそういった意見も出されたが、それはあくまでも結果論である。第一回ということもあり「出来ることはやってみよう」という気持ちはあったが、その失敗から得られた教訓は十分な収穫とっていいだろう。

●○ 今後の展望 ○●

やるからには「何のためにやるのか」という点を明確にしたい。今回と同じ程度のことなら簡単に出来るであろうが、それでは無駄な労力を使っているだけだと言っていいだろう。広報方法の工夫、一般学生が参加しやすいメリットなど、改善の余地は多いと思われる。

●○ 協力団体 ○●

東京大学教養学部

東京大学消費生活共同組合購買部

●○ 企画担当者 ○●

特に設けなかった

アンケート

文責：渡部 春奈

●○ 企画概要 ○●

一般学生を対象に、主に環境週間に関するアンケートを実施。環境週間後、三四郎メンバーの有志が、一週間内の講義から適当に選んで教官に協力を依頼し、講義の前後に配布・回収を行った。

●○ 実施期間 ○●

2003年6月22日(月)～27日(金)

●○ 実施場所 ○●

各講義棟

●○ 目的 ○●

環境週間に対する学生の反応を調べ、次回に生かすため。また、今後の活動の参考にするため、環境意識調査や環境三四郎に関する質問も加えた。

●○ 企画報告 ○●

◇ アンケート実施方法 ◇

三四郎メンバーの有志が、各自適当な講義の教官に直接交渉し、教官に配布・回収を依頼、又はメンバーが直接アンケートを実施した。実施時間は教官により、講義前後や講義中と様々。また事前に、アンケートの実施目的や実施方法などをまとめた依頼書を作成しておき、教官に依頼する際に利用した。

◇ アンケート実施クラス一覧 ◇

- | | | | |
|-----------|----|------------|--------|
| ・6月25日(水) | 4限 | ドイツ語(北川) | [山内]42 |
| ・6月23日(月) | 2限 | 植物科学(大森) | [桐生]30 |
| ・6月24日(火) | 1限 | 身体運動実習(小林) | [石塚]6 |
| ・6月24日(火) | 2限 | スペイン語(斎藤) | [石塚]11 |
| ・6月25日(水) | 4限 | 物性化学 | [渡部]21 |
| ・6月20日(金) | 5限 | 数理情報一般 | [杉浦]34 |

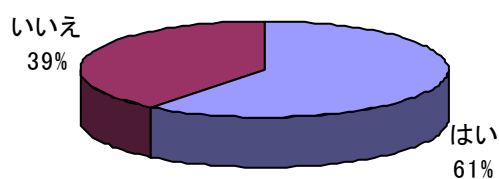
- ・ 6月30日(月) 3限 現代教育論(奈須) [山内]61
 - ・ 6月27日(金) 5限 環境の世紀(三四郎梓) 31
- 総数 236 (担当教官名) [担当者名]集計枚数

◇ アンケート内容および結果 ◇

【環境週間について】

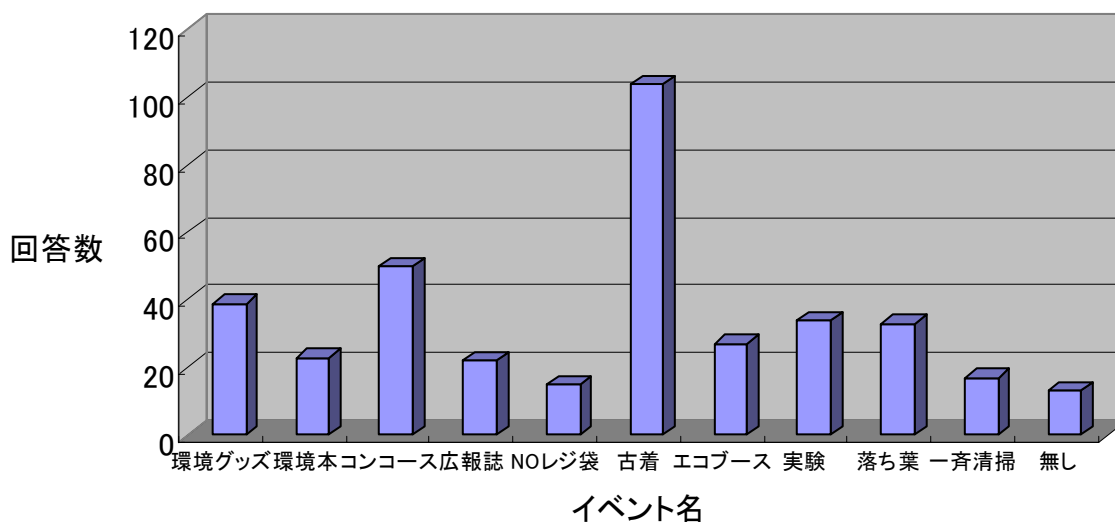
1. 環境週間の存在を知っていましたか？

YES…143 NO…93



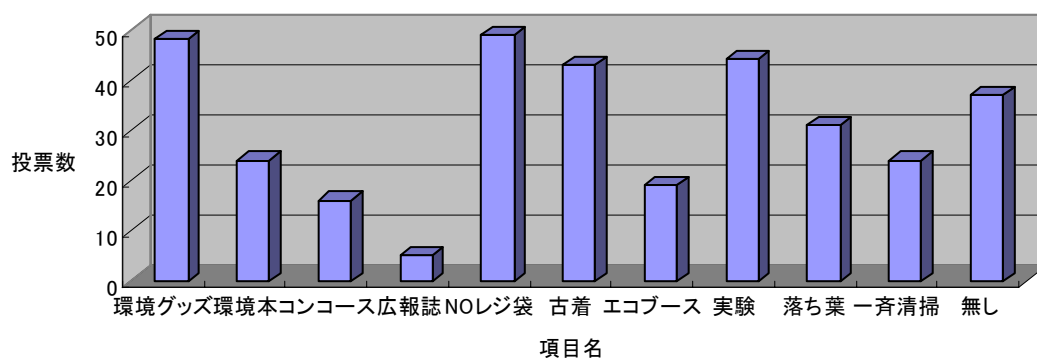
2. (1でYES)どのイベントが実施されたのを知っていますか？(選択式)

環境グッズ…39 環境本…23 コンコース…50 広報誌…22
 NOレジ袋…15 古着回収…104 エコブース…27 化学実験…34
 落ち葉堆肥化…33 一斉清掃…17 一つもない…13



3-1. (1でNOと答えた場合も)興味をもったイベントを三つまで。

環境グッズ…48 環境本…24 コンコース…16 広報誌…5
NOレジ袋…49 古着回収…43 エコブース…19 化学実験…44
落ち葉堆肥化…31 一斉清掃…24 一つもない…37



3-2. 上で答えた3つのイベントについて、そう思った理由・感想。

1. 環境グッズ

- 環境グッズが見てみたい、知りたいから…8
- 効果があると思うから…5
- 生協に設置して置けばみんなの目にとまりやすいから
- 「環境グッズ」と大きく出していれば多分多くの方が気にするから
- 生協のエコ商品はこれまで目立ってなく、みんなが存在を知ってくれるか
もと思った
- 生協を利用したことが良いと思ったから
- 環境グッズがほしいから…4
- 「破壊されつつある熱帯雨林Tシャツ」が個人的に欲しい
- 携帯を充電するやつが欲しくなった
- 太陽電池の充電器はほしかった。
- 商品がいろいろあって面白かったから…4
- 面白そうだから…2
- 役に立つから
- その他
- 一番直接（自分に）関わるものだから
- 気軽に環境問題に取り組めるから
- 自分も積極的に参加できるので

2. 環境本

- 効果があると思うから
- 生協を利用するのはいいと思う
- 生協に設置して置けばみんなの目にとまりやすいから
- 便利
- テーマ講義の先生お勧めの本がまとめられているから
- 講義で取り上げられた本があった
- 興味ある人には便利と思う
- 普通の本屋ではバラバラに置いてあるから
- どんな本があるのか興味がある
- 環境問題に関する知識を得たいから
- それなりに知識を得ることが必要だと思ったから
- やはり知ることは大切だ！深い知識を身に付け、自らの身にひきつけて考える事が出来る
- 今一番問題になっている環境問題を知りたい
- 本と言うのが良い
- 分りやすい本がある
- 買いたかった。知らなかった
- 思わず立ち読みしてしまいました。安井先生と武田先生の本が同時に展示されてるのが最高(笑)

3. コンコース エコブースと混同している人が数人見受けられた

- 環境についての知識実行できる手軽な運動について情報が得ることが出来るから
- 刺激を受ける、生活上の改革ができる
- 実はみてないしと言うより気づかなかったのですが(ごめんなさい)でもいい試みだと思います。もう少し目立つにしてくれると嬉しいです。
- そうした活動が身近に感じられたから

4. 広報誌

- 内容が面白かった…2
- 環境についての知識実行できる手軽な運動について情報が得ることが出来るから

5. NOレジ袋

- 実行が必要だと思うから…12
- (例) レジ袋は無駄である、もったいない
- ゴミを減らせる
- 環境に良い
- なかなか出来ないからこそやるべき
- 普段 NO って言っても「規則ですから」みたいに許可しないトコがあるので
- 日頃からもっと減らせるのではと思っていたから
- みんなが手軽に参加出来そうなイベントだから…4
- 普段から自分が実行している…3
- 自分が普段からやっていることで皆にも気を使って欲しいから
- いつもやっていることではないのでしょうか？
- 個人的にレジ袋反対派だから
- 実際に効果があってよい
- 刺激を受ける、生活上の改革ができる
- 袋を断る手間が省けて非常によかった
- これをきっかけに、レジ袋を断ることが定着すると思うから

6. 古着回収

- 利用者にとって便利…4
- 差し出す側、もらう側双方にとって都合がよく、そのうえリサイクルになっているから
- 古着を欲しがるとしても、整理したい人にとってもよいキャンペーン。一番効果があったのでは？
- PR が徹底したらかなり役立ちキャンペーンになると思う
- ほしいものもあれば、もらってほしいものもあるから
- 面白そうだから…4
- 家に古着がたくさんあるから…3
- 古着が欲しかったから…3 (例) 掘り出し物が見つかるかもしれないから
- 利用したから…3 (例) かわいい服をありがとうございました。
- 古着回収しているのを見たから…2
- タダだったから…3
- 気軽に参加できるから…2
- たくさん集まりそうだから
- 着まわしはゴミが出なくて良い若者のニーズに合ったエコだ

7. エコブース

- 自転車発電に興味を持った…4
- リサイクル弁当箱「ミンミ・リパック」に興味を持った…6
- 弁当箱のリサイクルボックスを普通のゴミ箱のところにも置いておいて頂きたい
- リサイクルについて分かればもう少し意識が高まるかも
- 弁当箱の分別が簡単なゴミ箱が少ないのはおかしいと思っていたから
- 回収した資源がどうなるのかに興味がある…2
- 刺激を受ける、生活上の改革ができる
- ゴミ分別は大事だと思うから
- とても身近なことについての話題を扱っているから

8. 化学実験

- 面白そう、見てみたい…13
- 例) どのような実験か想像がつかず確認してみたいと思ったから。
- 化学、実験（が好き）だから 4
- 電池作りに興味を持った…2
- 例) いろいろなものでエネルギーが作れることについて興味をもった
- 見た人の反応を見てみたいから
- いかにも東大らしいので
- 良くぞ他団体との提携を実現した！

9. 落ち葉堆肥化

- 実際に見てみたい…4
- 落ち葉の堆肥化が必要だと思うから…2
- その他
- 生ゴミの堆肥化に興味がある
- 前から落ち葉堆肥化に関心あったから
- 公園でやっていたのは知っています。ただ、公開していたとは知りませんでした
- 段階的に土にかわるところを見せるのが良かった

10. 一斉清掃

- きれいになるから、汚いのは嫌いだから…7
- 最も効率的に思えるから、目立つ…2
- その他

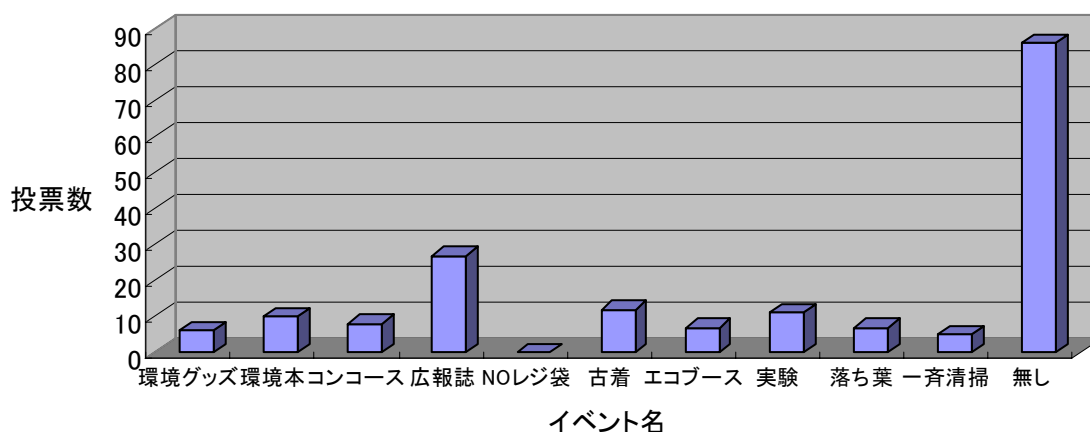
- そうじはきれいではないので
- 毎回何をやっているのか気になっていたから
- 若者が掃除している姿が新鮮だったから
- 駒場キャンパスには散乱しているゴミが多いから
- どれほど参加するのかわからないが、きれいにすればポイ捨ても減る
- どこを清掃したのかどういう風に清掃したのか知りたい

11. 他大との同時開催

環境改善を考える人が集まることはいいと思うから

4-1. (1でNOと答えた場合も) 意味がない、つまらないと思うイベントを三つまで。

環境グッズ…6 環境本…10 コンコース…8 広報誌…27
 NOレジ袋…0 古着回収…12 エコブース…7 化学実験…11
 落ち葉堆肥化…7 一斉清掃…5 一つもない…86



4-2. 上で答えた3つのイベントについて、そう思ったの理由・感想。

1. 環境グッズ

- 一週間で意味があると思えない
- 環境グッズを売って個人の意識が上がるとは思えない
- 所詮、金稼ぎだから

2. 環境本

- 本を読まない…2
- 本は高い
- 興味が湧かないものでないと買わないと思うから
- 本の内容が怪しい

- 一週間で意味があると思えない
 - 展示に気づかない
3. コンコース
- 展示場所としてふさわしくない…2 （通行の邪魔、騒々しい）
 - 見ないから
 - 展示に気づかない
4. 広報誌
- 紙の無駄だから、ゴミになるだけ…18
 - どうせゴミになるからネット上でデータとして配布した方がいいのでは？
 - 見る人は既に問題に関心がある。資源の無駄。
 - イベントを広めるためとはいえ、あんまりやりすぎるのはどうかと思った
 - 読んでもらえるか分からない割に紙と力が必要
 - 読まない
5. 古着回収
- 古着を持っていない
 - 興味がない
 - 回収した後どうなるのか分からない。
 - 知らない人の来た服とか着たくない
 - 小規模すぎる…2
 - ただ回収するだけでなく、アレンジするべきだと思う
 - 環境問題と関係があるのか？
6. エコブース
- 割り箸は製造過程で出る余った部分を使用していると聞いたことがあるが
 - ゆっくり見るほど暇ではないから
 - 今以上の知識の普及にはならない。みんな既に知っている
 - 自転車発電はむなしかった
7. 化学実験
- あえて行くほどたのしそうではない
 - 実験をしてもメッセージ性に乏しい気がするから
 - 正直なところ何をやっているのか意味不明に思えた
 - 興味がない…2

- やる気があまり感じられなかった
- 広報がない

8. 落ち葉堆肥化

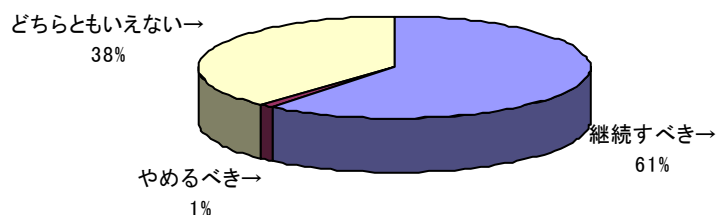
- あまり見たくない、興味がない…2
- インパクトがない
- 堆肥化自体は良いことだが、公開しても足を止めてみる人はあんまりいないのではないのでしょうか？

9. 一斉清掃

- 規模が小さいから…2
- すぐに汚されてしまうから

5. 来年も環境週間を行うことについてどう思いますか？

a. 継続すべき…137 b. やめるべき…3 c. どちらともいえない…86
無回答…10

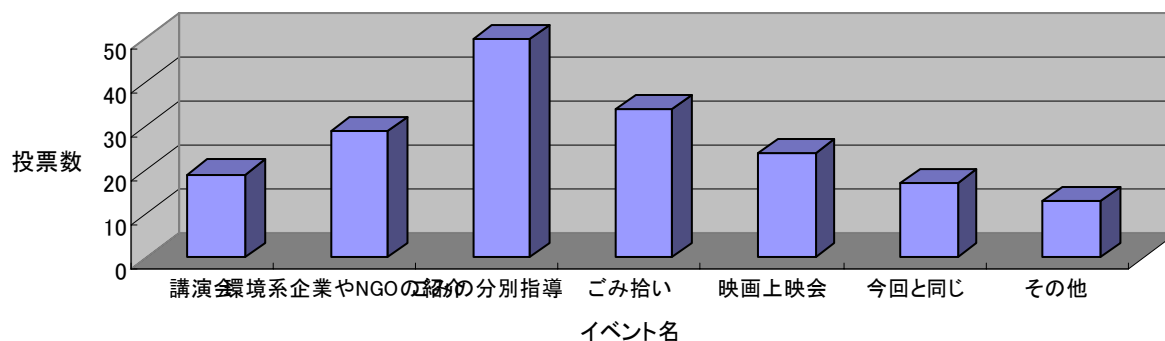


6. 来年の環境週間でやってほしいイベントは？(選択式)

講演会…19 環境系企業やNGOの紹介…29 ゴミの分別指導…54

ゴミ拾い…34 映画上映会…24 今回と同じ…17

その他…13 (NO 箸キャンペーン、古本販売、フリーマーケット、リサイクル、清掃、景品つきゴミ拾い競争、ゴミ捨ての呼びかけ、海岸のゴミ拾い、CO2濃度の高い環境を体験できる部屋、環境対策の話、役に立つ環境食品)



7. その他、環境週間についての意見など

- 自転車を複数台にして（10台以上）
- 多分みんなあまり知らないなので、もっとアピールすればよいと思う
- 少し影が薄いのでは
- 古着だけは目立っていたと思う。さらに頑張ってみて欲しい。
- 認知度が低いと思う。もっと宣伝と言うか、アピールをするべきだ。
- もっと教授達に協力させて宣伝してほしい
- 千里の道も一歩から。地味なことでも頑張って！
- 古着は無料配布は気まずいので100円ぐらいとって下さい
- NOレジ袋キャンペーンが常であればいいと思います。
- ビラをなんとかしたいですね・・・
- 存在は知ってたけど知ったのが期間のかなり前だったので忘れちゃってました。も一ちょっとアピールしてほしかったです。
- pr 不足でよく分からないまま始まって勝手に終わった感じがする。もっと事前にprしてほしかった
- イベントがいつあったかわかりにくい気がします
- 「志」の高い方が環境問題に取り組むことには自分は全く意義はありません。ただし、「環境」とは一体どう言った定義がなされているのかが必ずしも明確ではないように感じます。
-

【キャンパスの環境に関する意識調査】

1. 環境問題に興味がありますか？（五段階）

5…54

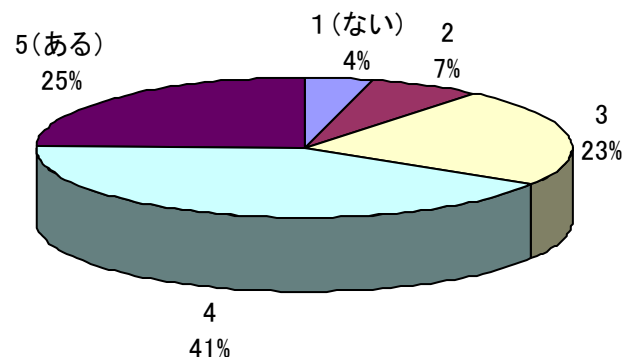
4…91

3…50

2…15

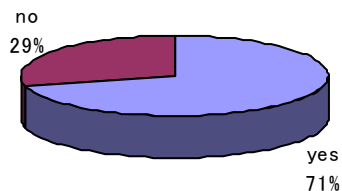
1…9

無回答…14



2. ミンミヤ割り箸が回収&リサイクルされているのを知っていますか？

YES…156 NO…63 無回答…15



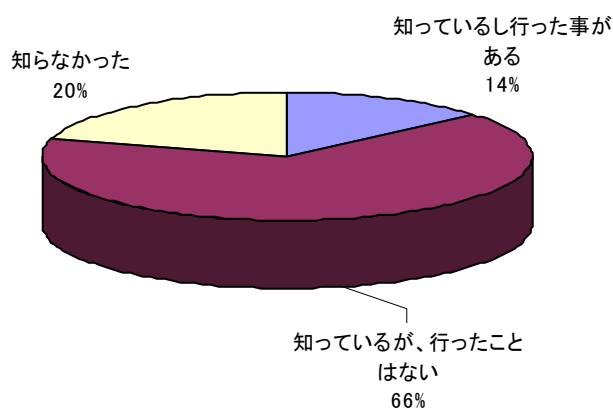
3. 一二郎池の存在を知っていますか？

a. 知っているし、行ったことがある…30

b. 知っているが、行ったことはない…145

c. 知らなかった…45

無回答…14



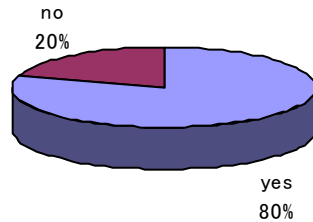
4. 3でaと答えた方は、実際に見た感想、b・cと答えた方は一二郎池に対するイメージを自由に書いて下さい。

- 一人で行くと留年する。
- 踏み込もうと思ったら近づけなかった。(しかも受験前日に行きそうだった。後、一二浪の噂を聞いて青ざめた。)でもそんな池があるなら三四郎池のようになごみスペースにしてほしい。やや遠いが。
- くさい、汚い
- 池？水量が少なかったのかあんまり見えなかった。
- 実はビオトープ化に参加してみたかったりした
- 本当は行ってはいけなかったみたい。猫がいて平和でした
- 何か地味と言うか、あまり行きたいという気にはならない
- 人間の音がなくて好きです。Biotop 作るにしてもなるべくいぢらない方向で。
- 行くべき理由がない
- 縁起が悪い

【環境三四郎について】

1. 「環境三四郎」というサークルがあることを知っていますか？

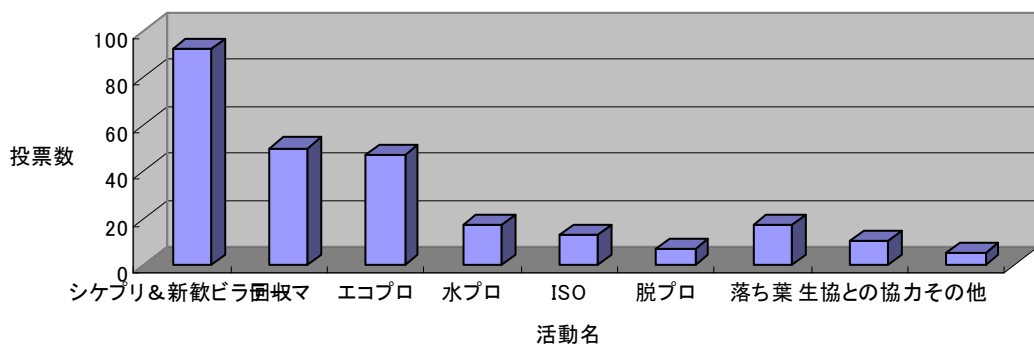
YES…175 NO…44 無回答…17



2. 環境三四郎の活動で、知っているものはありますか？（選択式・複数回答可）

シケプリ・新歓ビラ回収…92 テーマ講義…50 エコプロ…48 水プロ…17
 落ち葉堆肥化…17 ISO…13 脱プロ…10 生協との協力…7
 その他…2（自転車発電1、何も知らない1）

（回答人数 116 人）



3. 今後、環境三四郎に期待する活動は何ですか？

- まだまだ大学構内にポイ捨てをする心ない人がいるので、三四郎はこれを見逃してはいけない。
- さらなる古紙回収
- グローバルなもの
- 講演会などを開いてほしいです。
- シケプリ&新歓ビラ回収がよい、しずくリーンもよい
- 原子力発電など身近だが仕組みの分かりにくい環境問題に原因の解説
- ごみのリサイクルの促進
- 電気の節約
- 分からないけど幅広くやって欲しい。コンポストの普及運動とか。
- クリーンボックスに入れた紙のリサイクル(捨てるらしい)

- 環境に対して一般の意識を向けさせるようなもの
- 個人の環境に対する意識を高めて欲しい
- とりあえず知名度を上げたほうが良いのでは？
- 構内の建物の中の清掃。特に学生会館・生協のトイレやロッカールームの臭いをどうにかしてほしい。
- より積極的な活動アピール
- ビラを回収するのならばもっときちんと回収してほしい。清掃の人たちに迷惑をかけすぎだ。
- もっとやっていることを公開というか、アピールしてほしいです。
- 環境週間はすごくよかったです
- 構内美化。→ひとりひとりの意識の向上
- たまにはガチガチの調査活動やってもよいかも(割り箸のような) あと、環境観とかについてがつつり話し合う機会が欲しいぜ！そしてもちろん、今回の試みのように他の主体を巻き込んでいくことを忘れずに…
- 活動の成果が冊子になると参加していないものにとっても環境意識が共有できる
- いろいろとすごいビジョンを持っている人がいるので政策提言などを行ってみては？
- ゴミの分別指導

など

4. 環境三四郎に対する要望・苦情など

- がんばってー
- 1年生のときはあまり存在を知らず地味なイメージがありましたが、最近アピールも多くなって、私自身も環境への意識を促されます。これからも頑張ってください
- もっと存在をアピールして欲しい
- 忙しい中ご苦労様です
- 2のような大きな活動ではなく3に書いたような、もっと身近で私たちにより直接的に関係ある問題に対処してほしい。
- もっと政治的に活動して欲しい
- もう少し表に出て活動して大丈夫です。
- ビオトープ化はしてもしなくてもいいから一二郎池は残しておいてほしい。
- こういうアンケート自体が紙のムダじゃないのですか
- もっとやってることをアピールすべし！
- テーマ講義が五限にあり、ゼミが六元にあるのはきつい
- 何で学生が講義に参画してるかがいまいち納得いかない

【回答者内訳】

1年生：114人 2年生：41人 3年生以上&無回答：81人

理科Ⅰ類：85人 理科Ⅱ類：41人 理科Ⅲ類：3人
文科Ⅰ類：6人 文科Ⅱ類：6人 文科Ⅲ類：11人
その他所属&無回答：84人

●○ 開催までの道のり ○●

2003年5月7日 アンケート実施を提案、内容、実施方法の大枠、担当者を決めた
14日 内容の詳細について決定
6月4日 アンケート原案を検討
11日 完成版確認後、印刷へ
各自、教官にアンケート配布の協力を依頼し始める
19日～26日 各自、各講義でアンケートを実施

●○ 考察 ○●

全体的な印象として、環境週間や環境三四郎に対するイメージが私たちが予想していたよりも良かったと思います。6割以上の方が環境週間の存在を知っており、同じく6割以上の方が来年も環境週間を行なうべきであると回答してくれたというデータは、今回の環境週間が一般学生にどのような印象を与えたのかを視覚化してくれたと思います。ですが行なっていたのを知っていた企画と興味を持った企画に差があった(例：落ち葉堆肥化や化学実験)ことは、広報をしっかりと行なっていたとしたらより多くの学生が参加していたのではないかと考えられ悔やまれます。広報誌の評価が予想以上に低かったのも残念でした。

また、「環境問題に興味がありますか？」という質問に対して4や5で答えてくれていた人は、来年も環境週間を行なうべきであるといった回答や割り箸のリサイクルを知っていると答えた回答の割合が高かったです。逆に言えば、今まであまり環境問題に興味を持っていなかった人でも何らかの形で関わられるような企画を考えていくのがこれからの課題と言えらるでしょう。

●○ 費用 ○●

紙代も印刷代も学友会の援助金を利用。

●○ 企画担当者 ○●

渡部春奈

他大学との交流

文責：榎堀都

●○ 企画概要 ○●

慶應義塾大学、法政大学が同時期に環境週間を開催するため、各企画への参加・協力、広報での協力を行いました。

●○ 実施期間 ○●

2003年6月16日(月)～21日(土)

●○ 目的 ○●

同時開催とすることで、各大学間の交流を促進し、開催側のモチベーションを高めると共に、環境週間そのものを学生、環境週間を行っていない大学、一般へ強くアピールしたいと考えました。

●○ 企画報告 ○●

◇ 広報の協力 ◇

東大で配布した環境週間広報誌や、慶應・法政で配布された冊子で各大学の企画の紹介を行いました。そして3大学合同ホームページを作成し、一体感を出すこともできたと思います。

また、3大学合同のプレスリリースを環境NGO全国青年環境連盟(エコ・リーグ)を通して行いました。環境省と文部科学省の記者クラブを訪問し、新聞社などに、資料を見てもらいながら説明を行いました。しかし、今回は残念ながら取材されることはありませんでした。

◇ 他大学合同パネルディスカッションへの参加 ◇

6月17日(火)18:10より慶應義塾大学日吉キャンパス内来往舎シンポジウムペースにて、他大学合同パネルディスカッションが行われ、パネリストとして大部沙絵子(文科1類2年)が参加しました。他に、上智大学、早稲田大学、慶應義塾大学日吉・SFC各キャンパスからの参加があり、大学内の環境問題をテーマにディスカッションを行いました。各大学の環境への取り組みは参考にしたいと思うところも多く、興味深い内容でした。

◇ 慶應環境週間「矢上小と慶應のクリーン大作戦」への協力 ◇

6月21日(土)9:00より矢上川沿いで矢上小学校と協力して行われたごみ拾いに、環境三四郎より5人参加しました。小学校児童を含む数人のグループで慶應日吉キャンパス近くの矢上川沿いのごみ拾いを行いました。ごみ拾いという行動自体も地域とのつながりが感じられ面白く、また小学生100人以上、保護者数十名とかなり多くの参加者で、日頃接することが難しい一般の方々、子供との触れ合いは有意義で楽しいものでした。こういった企画は地域とのタイアップということで非常に重要であり、来年度以降の企画として参考になると思いました。

◇ 慶應環境サークルE.C.O.より「古着回収キャンペーン」への協力 ◇

環境週間中毎日駒場キャンパスで行っていた「古着回収キャンペーン」へ、E.C.O.より古着の提供をして頂きました。東大の環境週間の企画では今回なかなか他大学と協力できる企画がなく、このように少しでも協力をして頂けたのは有り難く、また励みにもなりました。

◇ 環境週間合同報告会 ◇

7月12日(土)に国立オリンピックセンターにて3大学合同の報告会を行いました。詳しくは、合同報告会のページをご覧ください。

◇ 当日の写真 ◇



「他大学合同パネルディスカッション」



「矢上小と慶應のクリーン大作戦」

●○ 開催までの道のり ○●

2003年4月 慶應環境サークルE.C.O.と同時開催として環境週間を行うことに決定。
下旬には法政大学H.E.L.P!に同時開催を打診。
環境週間ホームページ合同トップページ作成。

5月 法政大学キャンパス・エコロジー・フォーラムとの協力決定。

6月上旬 環境省・文部科学省の記者クラブプレスリリース。

6月16日 環境週間。

） 「他大学合同パネルディスカッション」「矢上小と慶應のクリーン大

21日 作戦」に参加・協力。

「古着回収キャンペーン」への協力を得る

7月12日 合同報告会

●○ 考察 ○●

どのメンバーも自身の企画で手一杯になってしまっていて、とても他大学の企画に参加、協力する余裕がなかったというのが事実です。そのため、法政大学には少しも足を運ぶことができなかつたのが残念でした。しかし、「合同開催」としているだけにモチベーションも上がり、積極的に慶應の講演会に行ってみたり各企画に参加してみることができ、他大学の様子を窺うことができました。そこで感じたのはやはり、多くの一般学生の興味を引くのは非常に難しいということでした。

「同時開催」は環境週間開催直前に決まり、交流できる企画立案がほとんど不可能な状態でしたが、開催メンバーに同じことを目指し行動している同士という意識が生まれれば、この「同時開催」が一時の交流に終ることなく、ノウハウや問題の共有を通してこれからの環境週間、そして活動に良い影響があるものと思います。

●○ 今後の展望 ○●

今回は急遽決まったため、「同時開催」というだけで、合同での企画が全くありませんでした。次回からはこの3大学だけでなく、環境週間開催校そのものが増え、合同企画を作りお互いに連携を強めていければと思います。連携を強めることのメリットは、環境週間自体のインパクトが大きくなり、日頃の活動も含め外部発信への効果、そして環境週間が充実しイベント性も高まり、一般学生が参加しやすいものにならないかということです。

そうなってくるとやはり全くの同時期に開催すると、自分の開催で忙しく、他大学の企画への参加がほとんどできなくなるということは明らかです。また、今回もそうでしたが、一般学生にはほとんど大学間の交流は認知されていないものと思われ、同時開催で他大学での企画ができないとなると、せっかくの相乗効果も開催メンバーのみということになってしまいます。時期をずらしての開催を検討してもよいと思います。

そして、このようにきっちりした「合同開催」を行うには、今回は担当者がありませんでしたが、他大学交流担当者を決め、大学間のネットワークを強めて、お互いに話し合いを進めていくことが重要になってくるでしょう。

●○ 協力団体 ○●

慶應義塾大学 E. C. O.

法政大学キャンパス・エコロジー・フォーラム

法政大学 H. E. L. P!

全国青年環境連盟

合同報告会

文責：山内文夫

●○ 企画概要 ○●

2003年6月16日～21日に「環境週間」を実施した3大学6キャンパスの人が集り、互いの「環境週間」の内容の報告、これから「環境週間」を広めるにはどうすればよいかについてのディスカッションを行った。

●○ 実施期間 ○●

2003年7月12日(土) 13:30～17:00

●○ 実施場所 ○●

国立オリンピック記念青少年総合センター

●○ 目的 ○●

今後「環境週間」が全国に広がっていくことを期待し、互いの「環境週間」を知り、さらによりよいものにしていくための意見交換を目的とした。

●○ 企画報告 ○●

前半ではまず、3大学6キャンパス（慶応大学【三田キャンパス・日吉キャンパス・SFC】・法政大学【市ヶ谷キャンパス・多摩キャンパス】・東京大学）における「環境週間」の実施内容の報告を行った。各キャンパスさまざまなことを行って、おもしろい企画も多かった。実施内容に関する資料は部室にもある。

後半は、今後「環境週間」を広めていくにはどうすべきかということに関してのディスカッションを行った。各大学とも、一般学生の関心が低いらしく大学内での広報をもっとすべきであり、目を引くもの（自転車発電など）をもっと前面に出すとよいのではという意見や、協力者に何か還元できれば一般学生も率先して参加するのではという意見もあった。大学間のコラボレーションについては、同じ日程で実施すると互いの企画に参加できないので、環境月間である6月のそれぞれの週に別々に行ってはどうかという案が出た。

◇ 広報方法 ◇

実施大学関係者には直接伝えたが、様々なメーリングリストに広報分を流したのが主な手段であった。以下に広報分を転載する。

2003年6月16日～21日の一週間、慶應義塾大学、東京大学、法政大学、6つのキャンパスで環境週間が行われました。今回はその報告会のお知らせです。

■ □ ■

□ ■

■ 環境週間2003 合同報告会

7. 12 (Sat) 13:30開始

■

■ □

■ □ ■

「環境週間」って知ってますか？

一言で書くと

「環境に関するさまざまな企画を行う週間」

一週間の間にさまざまな企画を行うことで、学生や教職員の環境意識を効果的に高めることができます。

- ・うちの大学の学生は環境に対する意識が低いんじゃないかな？
→環境週間をやって意識を高めましょう。
- ・大学内の教職員は環境に対してどう思ってるんだろう？
→環境週間をきっかけに仲良くなって聞きだしましょう。
- ・おもしろい企画を思いついたんだけど、いつやろう？
→環境週間にやりましょう。
- ・大学の生協に、エコグッズをおいてほしいんだけど、キッカケが・・・
→環境週間をキッカケにしましょう。
- ・図書館に、環境に関する本をおいてほしいんだけど、
どうやったら置いてくれるのかな？

→環境週間を口実にコーナーを作ってもらいましょう。

- ・うちのサークルって、大学内ではあんまり知られてないんだよね。
→環境週間を企画して内外にアピールしましょう

いろんなことができる、環境週間。

実際にどんなことをやっていたのか気になりますか？

「環境週間って何？」という方も

「うちの大学で環境週間やったんだけど、

他の大学ではどんなことやってたの？」という方も

「環境週間やってみたい」という方も

みなさん大歓迎。

どしどしお越してください。

環境週間合同HPはコチラ↓

<http://www.geocities.co.jp/Bookend-Ryunosuke/1437/ecoweek>

以下報告会の詳細です。

□とき

2003年7月12日(土) 13:30~17:00

※受付開始は13:00です。

□ところ

国立オリンピック記念青少年総合センター

(小田急線 参宮橋下車 徒歩約7分)

<http://www.nyc.go.jp/outline/b5.html>

□参加費

300円(資料代等として)

※※※割引※※※

大学一年生 300円→0円

エコ・リーグ会員 300円→0円

当日プログラム（予定）

- 13：00～ 開場
- 13：30～ 開会
- 13：40～ 各大学、各キャンパスにおける環境週間の報告
- 15：30～ 環境週間に関するグループディスカッション
- 17：00 閉会

定員

40名

申し込み方法

info-eco-week@freeml.com まで

以下の「記入内容」を入力の上メールにてお申し込みください。

申し込み確認後、折り返し返信致します。

記入内容

- ・氏名（ふりがな） :
- ・学校名（学部、学年） :
- ・所属（サークルなど） :
- ・携帯電話 :
- ・Eメール :

お問い合わせ

info-eco-week@freeml.com（飯田、西村）

お気軽にどうぞ

主催団体

全国青年環境連盟（エコ・リーグ）

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 2-19 銀鈴会館 507

URL : <http://www2.biglobe.ne.jp/~eleague/>

E-mail : eleague@mx.mesh.ne.jp

TEL/FAX : 03-5225-7206

（電話の場合は平日の夜 7 時～9 時におかけ下さい。）

●○ 開催までの道のり ○●

2003年6月13日 エコ・リーグの方から合同報告会のアイデアが出される

その後、準備は基本的にエコ・リーグの方に行なってもらった。

●○ 今後の展望 ○●

環境週間のネットワークを広く広めていくためにこのようなフィードバックを行なっていくのは非常に意義のあることだと思う。

しかし、今回は主に環境週間を行なった大学の関係者しか集まらなかったこともありその点での広報効果は大きくなかったように思う。

今後、環境週間そのものが有名になっていけばこのような報告会に興味を持ってくれる人も増えていくであろう。今後のコラボレーションに期待するとともに、このような企画を開催して下さったエコ・リーグの方に心からお礼を申し上げたい。

●○ お世話になった方 ○●

西村信吾様・・・合同報告会をコーディネートして頂いた

飯田康喜様・・・同上

広報方法

文責：桐生 朋文

●○ 企画概要 ○●

環境週間を広く知ってもらうために様々な広報を行いました。

ホームページ作成、プレスリリース、合同報告会、立て看板設置、各種ポスター、生協食堂での卓上 POP、各種メーリングリストや掲示板への広報文章掲載、東大内著名サイト all-today.com への宣伝文掲載、広報誌作成&無料配布、生協の組合員向けメーリングリスト、都内学生向けメールマガジン Do-campus での企画紹介、慶應・法政大学との合同広報、スタッフバッジ作成など。

●○ 実施期間 ○●

2003 年 4 月のホームページ公開を皮切りに環境週間終了後の合同報告会まで様々な広報を行いました。

●○ 目的 ○●

環境週間当日の企画がどれほどしっかり出来たとしても、それに気づいてくれる人が少なければ本企画の成果は著しく失われてしまいます。まずは全学生に環境週間の存在を知ってもらうこと、そしてより多くの方に興味を持っていただく事が今回の目的である「日常生活へのフィードバック」と「楽しく全員参加」に繋がるものと考え早期から広報に力を注いできました。

●○ 企画報告 ○●

各広報方法について別々に詳細を記載します。

◇ ホームページ作成について ◇

広報手段のメインとして考えていたものです。環境週間の各企画の紹介や写真などを掲載したりしました。このホームページで古着回収のことを知って協力してくれたという方もいました。詳細は実物をご覧ください。

『東京大学環境週間 2003 公式ホームページ』

<http://www.sanshiro.ne.jp/e-week/>

『3 大学合同ホームページ』

<http://www.geocities.co.jp/Bookend-Ryunosuke/1437/ecoweek/>

3 大学合同ホームページというのは、慶應義塾大学・法政大学との共同広報の一環として行なわれたものです。詳しくは下記をご覧ください。

本来ならば新生が入学してくるまでに公開したかったため 3 月に作成に取り掛かったのですが予想以上に時間がかかり、4 月 21 日に公開に漕ぎ着けました。

他の広報ともあいまってアクセス数は一日 40 前後で多い日は 100 人近いアクセスがありました。そのため、広報効果はかなり大きかったと思います。

ただ、作成・更新を一人で行なっていたこともあって更新が遅れ気味になってしまい結局全てのコンテンツが本番を迎えても完成していなかったのは反省すべき点です。

◇ プレスリリースについて ◇

他大学の学生や一般の方などにも環境週間のような取り組みを知ってもらうことを目的としてプレスリリースも行ないました。

毎日新聞や朝日新聞などの各新聞社の他、環境省と文部科学省の記者クラブにも取材願いを出しました。プレスリリースに際しては文章作成など様々な点において全国青年環境連盟(エコ・リーグ)の方に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。実際に使用した文章は割愛させていただきます。

ですが、動き出しが遅かったために実際に記者クラブに依頼を行ったのが環境週間一週間前程度だった事もあり、今回は取材は行なわれませんでした。興味を持ってくださった記者の方はいらっしゃったので、来年度以降は今回作り上げたネットワークを生かして是非とも成功させたいと思います。

◇ 合同報告会について ◇

環境週間を同時開催した東京大学・慶應義塾大学・法政大学においてお互いの大学が何を行っていたのか情報交換する事と、今回行なわなかった各大学に実際の実現までの経緯を伝えることで来年度以降の環境週間開催校を増加させる事を目的として合同報告会を行いました。

詳しくは本報告書第二部「13. 合同報告会」のページをご覧ください。

◇ 立て看板設置について ◇

効果的な広報のために立て看板による広報も行ないました。

設置場所：正門前

生協購買部前

当日テント前

設置までの経緯：2003 年 5 月 21 日 ポスター原案作成

5 月 24, 25 日 立て看板作成

5 月 26 日 設置

なお、立て看板は生協様より 180cm×180cm 一枚と 90cm×180cm 二枚を貸与して頂きました。

立て看板写真：



※ともに生協購買部前の写真です。

作成方法：

立て看板は貸与して頂いたので環境三四郎では作成していません。

看板デザインについては時間的な制約もあって Adobe Illustrator 10 で全て作成し普通にプリントアウトして作成しました。そのため、雨でインクが流れてしまうという事態になりました。

◇ 各種ポスターについて ◇

貼付場所：屋外掲示板

- キャンパスプラザロビー
- 学生会館ロビー
- 生協購買部入り口
- 生協書籍部階段
- 生協書籍部
- 生協食堂

設置までの経緯は立て看板とほぼ同じです。

全て掲示許可願いを提出して掲示しました。サイズは B3 です。

また、広報誌を入れるための専用の箱もポスターと同じデザインで作成しました。

ポスターの写真：



◇ 食堂での卓上 POP について ◇

生協の食堂のテーブルの上には「卓上 POP」と呼ばれる B6 サイズのミニ立て看板のようなものが各テーブルに 1~4 個ずつ置いてあります。食堂を利用する際は必ずといっていいほど目にとまり、宣伝効果が非常に高い宣伝媒体です。これらのうちいくつかを生協さまの協力により環境三四郎で自由に使わせていただく事が出来ました。

作成枚数は 30 個 × 両面で 60 枚です。

設置までの経緯：2003 年 5 月 8 日

生協店長様とのミーティング

POP 設置を快諾して頂く。

5 月 9 日

POP50 個を新たに購入して頂ける

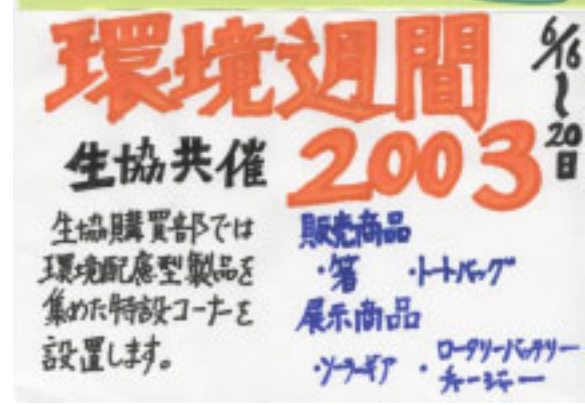
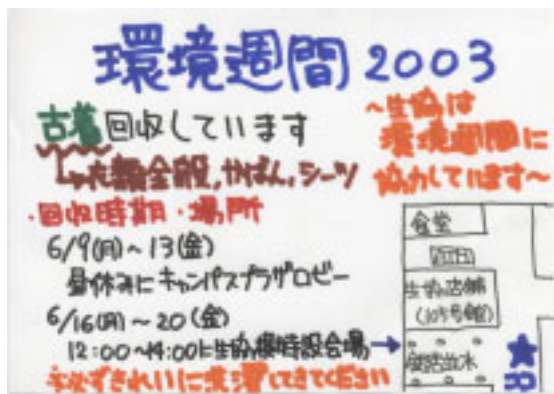
5 月 21, 22 日

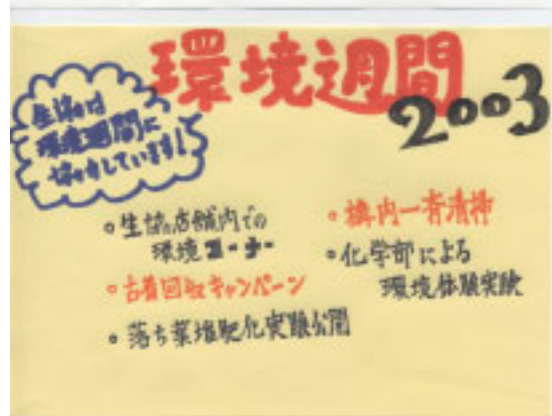
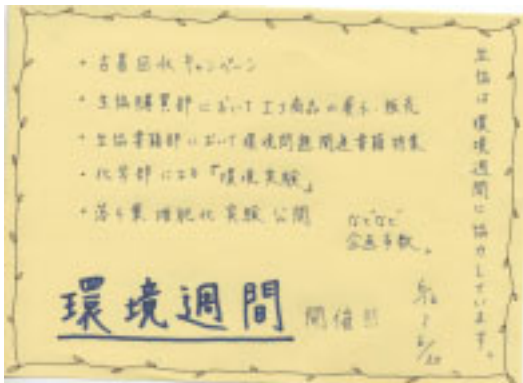
POP を作成。

5 月 23 日

食堂に POP を設置

卓上 POP 写真





◇ all-todai.com での宣伝について ◇

東大生が利用している中で恐らく最も有名なウェブサイト「all-todai.com」
<http://www.all-todai.com> にイベント情報として宣伝して頂きました。

その際に掲載した文章は次の「各種メーリングリストや掲示板での宣伝について」
 のものと同じなのでそこで紹介します。



◇ 各種メーリングリストや掲示板での宣伝について ◇

環境関連の諸団体の掲示板やメーリングリストに環境週間の広報分を掲載しました。
 相当数の団体の掲示板などに書き込みを行なったので、その団体名の詳細は割愛させて
 頂きます。

以下、実際に掲載した広報用文章です。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

6/16～6/21 3大学同時開催！！

～～環境週間 2003 のお知らせ～*～*

環境週間全体ホームページ <http://y7.net/ecoweek/>

東京大学環境週間公式サイト <http://sanshiro.ne.jp/e-week/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

東京大学では、学部や生協などの後援で
環境サークル「環境三四郎」主催により「環境週間」を実施します。

慶応・法政でも環境週間が同時開催され、
東大での環境週間は6月16日(月)～20日(金)の1週間。

誰もが環境について考え、触れることが出来るような
様々な環境関連企画を行います。
詳しくはホームページまたは生協などに置いてある冊子を御覧下さい。

◇=====環境週間のテーマは…=====◇

《日常生活へのフィードバック》

&

《楽しく全員参加》

◇=====◇

この1週間で環境に対してちょっとでも考えてくれたら、
その気持ちを普段の生活でも忘れないでいてほしいと思います。
キャンパス内に環境を考える「雰囲気」を作ること。
それが東大での環境週間の目的です。

以下、実際に行われる企画からいくつかピックアップします。

◆ 古着回収キャンペーン ◆

<http://www.sanshiro.ne.jp/activity/03/k02/activity/01.htm>

要らなくなった古着やカバンを回収し無料で配布することでリユースを促進します。余った古着は東南アジアに輸出される他、工業用のウエスや軍手の材料になります。

回収場所と期間↓

6月9日(月)～13日(金)：キャンパスプラザロビー

6月16日(月)～20日(金)：生協協特設会場

に直接持ってきてください。粗品も用意しております。

郵送も可能です。

詳しくは上記アドレスや購買部前の立て看板を御覧ください。

◆ 生協での環境コーナー ◆

購買部や書籍部において、環境配慮方製品や環境関連の書籍を集めた「環境コーナー」を特設します。

この期間だけの特別製品もあるのでお楽しみに。

◆ 落ち葉堆肥化実験公開 ◆

三四郎が中心となって行っている構内の落ち葉堆肥化実験。

落ち葉の堆肥化教室を開いたり、実際に落ち葉の世話をします。

時間は 6月18日(水)13:00～14:00

生協協の特設会場に集合してください。雨天順延です。

◆ 化学部による環境体験実験 ◆

生協協の特設会場において、化学部による実験体験コーナーを設置します。燃料電池や紙作りを実施予定。

12:30～14:00 に現地に直接来てください。

この他にも、NO レジ袋キャンペーンや、自転車発電コーナー、広報誌の発行なども行っています。

また、他大では学生よるパネルディスカッションや講演会、地域のごみ拾いなどが行われます。

詳しい企画内容はホームページを御覧ください。

~~~~~

環境週間に関する全ての御問い合わせは、info@sanshiro.ne.jp まで御願います。

環境週間責任者：理科Ⅱ類 2年 桐生朋文

\*\*\*\*\*

#### ◇ 広報誌について ◇

環境週間で行われた各企画をより深く紹介し繋ぐものとして、様々な環境に関する話題を掲載して広く学生に知ってもらうために広報誌を作成し無料で配布しました。

詳しくは「第二部 9. 広報誌『eco-week』発行」をご覧ください。

#### ◇ 生協組合員向けメーリングリストでの宣伝について ◇

これにつきましては環境三四郎のほうから依頼したのではなく、生協様が独自に行なってくださった広報方法です。生協の組合員や職員の方に届けられるもので環境三四郎だけでは行なえない範囲の人たちにも広報効果を与える事が出来たと思います。

#### ◇ Do-campus での紹介について ◇

首都圏に住む大学生向けの大手情報サイト「Do-campus」様 <http://www.do-campus.net/> に環境週間の広報を依頼したところ、2003年6月10日のメーリングリストにイベント情報として掲載していただく事が出来ました。

#### ◇ 慶応義塾大学・法政大学との合同広報について ◇

同時開催校である慶應義塾大学と法政大学と共同で行なった広報もありました。お互いの広報をし合うことで広報効果を高め、3大学合同という形をとることで各主体により興味を持ってもらう事が狙いです。

具体的な広報内容としては、

- ・ 広報誌にお互いの大学の広報ページを作成
- ・ 合同プレスリリース
- ・ 合同ホームページ作成

があります。

各企画の詳細は其々の報告のページをご覧ください。

#### ◇ スタッフバッジの作成について ◇

当日、スタッフを区別するためと環境週間を実施していることのアピールのためにスタッフバッジを作成しました。



#### ●○ 考察 ○●

全体的に「広報」への力のかけ方が不足していたように思います。第一回の企画ということもあって、広報には力を入れようと3月の段階からメンバー一同考えていました。しかし、実際には企画自体の準備に追われてしまい、広報をおざなりにしてしまいました。

アンケート結果を見る限り決して一般学生は今回の一連の企画に興味を持っていないわけではありませんでした。それにも関わらず、環境週間の存在そのものを知らない人が多くいたり、古着回収キャンペーンや生協での企画などに当日になってから気がつく人が多かったのはもったいなかったです。何より、アンケートでは人気が高かったのに当日全くといっていいほど一般学生の集まらなかった落ち場堆肥化実験や化学部による実験などは、もしも広報にもっと力を入れていたら充実した企画になっていたのではないかと思います。企画準備に割いた労力が無駄になった気がしてしまい非常に悔やまれます。

広報を各企画ごとに独立して行っていたのも原因の一つだと思います。全ての広報内容を統括する「広報担当者」を付けておけばより効率的な広報が出来たのではないかと思います。

それでも中には「へえ～、こんなことやってるんだ。オモシロ～イ。」とってくれる人、「環境三四郎ってすごいね」ってしてくれる人がいました。第一回目として、これらの反応を一般学生が示してくれたことには非常に大きな意義があると思います。まずは「環境週間」という言葉を定着させることに重点を置いてよかったのではないかと思います。

#### ●○ 今後の展望 ○●

上述の通り、広報統括者を任命するなどして広報全体の流れを把握する体制を作るべきだと思います。一人でもいいので広報に専念できる人間がいればかなり体系だった広報が出来るでしょう。また、「立て看板の数を増やすべきだった」という反省も出されたので、単純に量を増やすだけでもアピール効果はあると思います。

そして何より大事なのが一般学生に不快感を与えないこと。その点を意識した上で、新たな広報手段を探したいと思います。また、今回成功させる事が出来なかったプレスリリ

ースについては是非とも来年も挑戦してみる価値があると思います。新聞に記事が掲載されたりテレビ番組内で紹介されることによる広報効果と同じくらい、プレスリリースを通じて学ぶことは多いからです。

加えて、環境週間らしい、今までの駒場キャンパスに当たり前だった「量」の広報(大量の撒きビラ、貼りビラ、巨大な立て看板など)とは違った形での広報手段も探っていきたいです。

### ●○ 協力団体 ○●

東京大学消費生活協同組合

東大生協駒場学生委員会

東京大学教養学部

学館・キャンプラ運営委員会

all-todai.com

Do-campus

慶応義塾大学環境サークル E.C.O.

法政大学環境サークル キャンパスエコロジーフォーラム

全国青年環境連盟 エコ・リーグ

(順不同)

### ●○ 企画担当者 ○●

広報全体を統括する人間は特に設けませんでした。

# Memo

## 第三部

# 環境週間総括



# 1. 全体を通じての反省

全体責任者からの意見は「おわりに」に記す事とし、ここでは環境週間スタッフメンバーからの声をまとめる形で総括とさせて頂きたいと思います。各企画報告における「考察」と多少重複している部分がありますが、環境週間全体から見た相対的視点としてお考え下さい。

\*\*\*\*\*

・初回だし、今回はやること自体に意義があったのではないか。生協を巻き込んで新しいイベントを行える基礎が出来たのが大きいと思う。

・働きかけを遠慮しなくていい人が遠慮していて、一般学生への働きかけが不十分であったかも。不快すぎるとダメだが、不快さが全く無いと記憶に残らないもの。まあ、初回やりすぎてポシャるよりはましかもしれないけど…。

・晴れた日は古着が大人気で良かった。経済と環境の両立が出来ている気がした。

・布石。今回で学生の意識が向上しましたよ、とは言えないかもしれないけど、やってみたことによって一つ階段を上がれたのではと思う。

・多少なりとも三四郎の存在をアピールしたことに意義があったのではないか。自分達の活動を発信するのは大切なこと。

・かなり人的コストを消費した。ここまで

マンパワーが必要だとは思わなかった。それでもみんなよく頑張った！

・ホームページのデザインは綺麗だったし分かりやすかったと思う。

・正直 4 月くらいはこんなイベントが出来るのか不安だったけど出来た！

・来年やるなら(来年といわず今年でも)ごみの分別、リサイクルはもっと重点的にやるべきではないか。

・NO レジ袋キャンペーンはすごく意義のあることだと思うから、生協としっかり連携して徹底的にやるべきだと思う。

・自転車発電は人目を引けた。こいでくれた人が電気の大切さを知ってくれたか？まあまあ伝わったと思う。

・古着回収、リユースは成功だったと思う。次回はさらに回収量、配布量も増えるだろうからやってもいいと思う。

・来年やるなら、多大との同時開催をよりアピールして、開催大学を増やしていきたい。

・今回は雨による屋外イベントの影響が大きかった。来年やる時は「梅雨前」がいい。

・始まったときに比べて後半は古着のとこ



ろに人が沢山集まっていて、環境週間に対しての変な印象はなくなったと思う。

・学内の企画だけではなく地域との交流を  
したりしたい(ごみ拾いとか)

・東大で「3 大学同時開催」のイメージが  
無い。同時開催というからには合同イベン  
トも行ってみたい。だがそもそも、三大学  
同時開催した意味があったのだろうか？私  
には自分たちの準備が忙しくて他大へ行く  
余裕が無かった。

・エコブースをもっと目立たせないと、ミ  
ンミ(リサイクル弁当箱)の事を一般の人が  
知らないまま。展示を見てくれた人が少な  
かったのは残念。

・化学部の実験に興味を持っている人はア  
ンケートでは多かった。広報をうまくやっ  
て目立たせるともっと沢山の人が来てくれ  
そうでした。

・一般学生が「環境」に対して考えるきっ  
かけになっていればよかったです。

・三四郎メンバーもけっこう楽しんでた  
のでは？

・広報がもっと出来れば良かったです。実  
際にテントを見て環境週間の存在を知った  
人が多いと思います。テントの前を通らな  
かった人は環境週間を知るチャンスが少な  
かったと思います。

・古着を持って行ってくれた人にもっとエ

コブースを見てもらえればよかったです。思  
います。パンフレットを持って行ってら  
うとか

・晴れると古着は捌けることが分かった。  
あと、展示の方法も大事。古着がタダで持  
っていけるということをもっと宣伝すべき  
だったと思う。

「タダ?!わけわからねー。何でタダなの？」  
という人がチラホラ。

・アンケートのとり方はもう少し考えるべ  
きだった。

・化学部との協力態度が中途半端だったよ  
うに思う。

・今回は広報の対象が学生中心だったので、  
職員や先生方にも参加していただけるよう  
なイベントを企画しアピールしていきたい。

・全体を通して、企画準備段階において結  
果的に見れば必ずしもやらなくていい無駄  
な作業が多かった。

→必要最低限以上の労力をかけていた。

→コストパフォーマンスを良くすれば、同  
じ人的コストでより大きなことが出来たの  
では。

・仕事を分担するのが非常に下手くそでし  
た。上手く「あれやって」と言えれば、み  
んなでもっと色々な事がやれた気がします。  
また、一旦頼んだ仕事にも関わらず、中途  
半端に手を付けてしまって、却ってやりづ  
らくさせてしまいました。

・ホウレンソウは(他大の話を聞くと)よく出来ていた方だと思います。

・環境週間を開催するために半年間の活動を費やしたのが成果に見合っていたかは現段階では分かりません。ここで終わってしまったのは絶対に自己満足で終わる。しっかりと報告書を作って、その中で自分たちが苦労したことや後悔したことや上手くいったことをまとめて他の大学の参考になるものを作れば、それが今後のより大きな「環境週間」につながれば、結果的に必要無かった様々な作業も意味をなしてくる。東大内だけで見ても、今回出来たコネクションが今後の活動(環境週間だけでなく、三四郎の活動全て)に役立てば、それも非常に大きな収穫。

・古着を郵送してくれた人や、通り過ぎてくれた人が「頑張ってください。」といってくれるのは嬉しかった。でも、「頑張ってください。」じゃだめ。「頑張らなきゃ。」そう言ってもらうのが目的。もちろん、「頑張ってください。」と言ってくれる人は、何か感じるものがある、「頑張ろう」と思ったからそう言ってくれてるのかもしれませんが。

・エコブースにしろ実験にしろ、やった内容自体は面白いものだったと思う。あと一歩のアピール、詰めが甘かったために今ひとつの結果に終わった。もったいない。もう一押しが足りなかった。  
→「エコブース担当」みたいに、完全に分業させてしまい、気の済むまで徹底的にやってもらったほうが良かったのかも。

・各企画をやる意味とか、今回のコンセプトとか、色々考えて口では言ってきたけど、正直言って準備段階ではそれを十分に意識することが出来なかったのでは。

・計画は楽しかったけど、上手くいったかどうかの区切はつかない。でも、終わってみればやりがいはあった。

・今出たような反省点は、やる前から予想のついていたもの、考えてみれば分かるような事が多い。もっと頭の中でのシュミレーションをしておくべきだった。

・残ったのは疲労感。  
→疲労感が残るといのは、自分たちの行動に対して反応が得られなかったからでは。

・「環境」という言葉で何かを訴えるのは難しい。結局、古着だけ人気があったのは、それがタダでもらえるからというだけ。そこに「環境」でこじつける必要はなかった。

・色んな人が必要だと感じた。多様性があるから社会は動かせることを実感した。

・古着を無料でもらえるとは言っても、多少は三四郎と話をしなければいけないことを考えると、「全員参加」というテーマにはまだ改善点がある。もっとちょっとしたことで「参加」と言えるような形のイベントが出来れば良かった。

・とにかく何から何まで学部や生協のバックアップが出来た部分は大きい。運が良かった。初めての企画において様々な主体の

連携が図れたという意味ではすごく成果のあることだった。

・実質的に「テント」と「生協内」でしかイベントは行われていない。もっと、学校中外で行えるイベントがあればよかった。

・落ち葉を除いて、5日間同じイベントのみというのはマンネリする。他大のように、いくつかのイベントを別の日に行えたらよりよかったけど。

→今回は人手的にしょうがない面もあったのでは。

・そんな中でも郵送されてくる古着と一緒に「素晴らしい試みだと思います。応援しています。」という手紙が入っていたり、時折「頑張ってください。」と声をかけてくれる人がいるのは非常に嬉しくて励みになった。

\*\*\*\*\*

全員の意見に共通しているように、今回の環境週間全体を通じて「広報」というのが大きな課題として残ったのは確かです。初回ということもありますが、自分達がいくら努力したところでそれが一般の学生に届かなければ結局は自己満足と人的資源の浪費になってしまいます。そういった点から各企画について「この企画をやったことに本当に意味があったのか？」という反省が出ているのではないのでしょうか。その問い掛けを絶えずしていくことで、本当の意味で効果のある企画を今後は模索していきたいと思います。

また、もう一つ共通している意見として今回の環境週間を通じて形成されたネット

ワークが大きな意味を持っていたという意見があります。これは本当にその通りだと思います。今までどうしても自分達からの働きかけや実践が多かったキャンパスエコロジー活動において、このように様々な主体と「環境」という共通項の下に一つのイベントを行えたということは必ず今後の活動の糧になるでしょう。今回得たつながりや信頼を失わないよう、今後も積極的な協力を行なっていければと思います。

## 2. 来年度以降の展望

「全体を通じての反省」でも述べたように、今回東大内で行なった企画だけを見ても改善点を挙げればキリがありません。そうして得られた今回の反省点やノウハウは是非とも来年度以降に活かして欲しいと思います。各企画について「せっかく今年行ったのだから来年も行なおう。」と考える必要は全く無いと思います。今回の企画でやっても意味が無いと感じたものもあつたでしょう。一つ一つの取り組みについて、何のためにその企画を行なうのかといった理念を大切に、自分達がしっかりと意義を見出せる活動内容を考えていきたいと思っています。それが結果的に本当に効果のある取り組みへと繋がっていくと思います。

学内の取り組みだけではなく、他大学との連携も来年度以降の大きな課題であり可能性であると思います。今回は3大学合同広報という取り組みに留まりましたが、来年度以降は各大学のメンバーが共同で学外合同企画のようなものを行なえばより幅広い対象の人たちを巻き込めるのではないのでしょうか。また、環境週間を実施する大学をより増やして、ゆくゆくは日本中の大学で一斉に「環境」というキーワードの下で取り組む事が出来たなら社会に与える影響は非常に大きなものになるのではないのでしょうか。そのためにもお互いの大学でコラボレーションや情報共有を行なっていく体制作りもこれからの課題だと思っています。今回の合同報告会もそういった目的で行なわれました。本報告書も、これから環境週間を始めてみようと考えている大学の方な

どにお読み頂ければこの上ない幸いです。参加大学が増加してきた後には、合同企画の実施や環境週間全体を統括する機関のようなものが生まれる可能性もあるでしょう。

これまでのキャンパスエコロジー活動の集大成として、またその壁を突き破る新たな試みとして、環境週間は大きな可能性を秘めている活動です。今回はまだまだその「きっかけ」に過ぎないということを意識し、より良い環境週間の形を模索していきたいと思っています。

### 3. おわりに

当然ですが満足はしていません。環境週間の構想から開催まで7ヶ月、この報告書を書き上げるまでには僕の怠慢のせいで実に一年以上が経過してしまいました。先ずはその点をお詫びしたいと思います。

「はじめに」にも書いたように全てが初めての試みで色々な人に揉まれながら何とか開催まで漕ぎ着けました。ですが環境週間終了時には思ったほどの達成感も無く、こみ上げてくるものもありませんでした。

「大きいことでできてよかったね、で終わらせたくないよね。」

そんなメンバーからの言葉は僕の胸中そのものでした。

自分達が半年以上を費やしてまで実現したかったこと、環境週間を開催したことの意味、それは僕を含めて全ての人が其々抱えていることだと思います。ですが、それが僕らの中だけで終わってしまったのではもったいないと思います。

学生の意識という目に見えにくい部分に焦点を当て、敢えて振り向かれにくい平常授業時にこのような企画を行なうことでしか得ることの出来ない成果は必ずあります。

まだまだ環境週間は他のプロジェクトのような歴史も無ければノウハウもありません。これからの理想の上に、実務の試行錯誤の上に、自分達と他の主体との係わり合いの上に、受け継がれてゆくべき歴史が作られていく事でしょう。

環境週間の明確な定義だってまだ無いのです。学生に出来る環境活動の新たな形の

一つとして、新しささゆえに内在する環境週間の大きな可能性を是非とも多くの人たちで切り開いて行って欲しいと思います。

正直なところ、自分の未熟さ故に準備が思うように進行せず、周りのメンバーに迷惑をかけ失望と不満を与え続けていた状況に耐え切れなくなりそうな時もありました。

それでも嫌な顔一つせずいつも助けてくれるメンバーの協力があってから、その心遣いに応えたかったから、ここまで辿り着く事が出来ました。

今回の環境週間に関り、こんな責任者を最後まで支えてくれた全ての方々への心からのありがとうの気持ちが、今回の環境週間で僕が得た一番大きなものです。

その感謝の言葉をもって、本報告書の結びの言葉に代えさせていただきたいと思います。

環境週間 2003 総責任者

桐生 朋文

## 4. スタッフ一覧

環境三四郎

2年

榎堀都  
大部沙絵子  
尾崎令  
桐生朋文  
佐藤宗彦  
山本勝也  
渡部春奈

1年

青山俊輔  
神戸康聡  
杉浦大介  
田辺佑輔  
藤野薫  
山内文夫

(50音順)

## 環境週間 2003 活動報告書

編集・発行：環境三四郎キャンパスエコロジー活動

発行日：2004年1月20日

URL：<http://www.sanshiro.ne.jp/e-week/>

Mail：[info@sanshiro.ne.jp](mailto:info@sanshiro.ne.jp)

※本報告書のデータは上記 URL より DL できます。